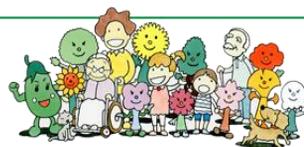


令和5年度（2023年度） 事業報告書

年度目標

— 介護サービスの質向上と“同時に”スタッフの負担軽減を図る —

私たちは、地域に信頼されるべき
存在であり続けます



社会福祉法人 鈴鹿福祉会

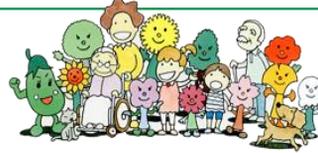
鈴鹿グリーンホーム



鈴鹿グリーンホーム
公式ホームページ

経営理念

私たちは、地域に信頼されるべき
存在であり続けます



行動指針

「気持ちをかたちに」

～こころづかいを地域のみなさまに～ ～思いやりを地域のみなさまに～

行動方針

スタッフひとりひとりが「新たな目標」に向かい、チャレンジしていきます

採用方針

わたしたちと一緒に“鈴鹿グリーンホーム”をレベルアップしてくれる人

育成方針

「まなぶ風土」の醸成と「互いに努力を認め合える文化」の構築により「働きがいのある魅力的な職場」の形成と「豊かな人材」の育成を図ります

「みえ働きやすい介護職場取組宣言」目標（兼 衛生委員会目標）
働き方を改善して、仕事と家庭の両立を図る

中期経営計画ビジョン 〈2023.4-2026.3〉

革新と創造 -Innovation & Creation-

- 1 将来に向けて「人的パワー」を蓄える
- 2 働きやすさと働きがいの向上
- 3 「人」と「DX※」が完全調和した介護福祉サービスの提供：
超高齢化社会への対応、介護福祉サービスの質向上
- 4 地域が必要とする福祉サービスの創設：
地域共生社会の実現に向けて



令和5年度（2023年度）事業計画目標

－介護サービスの質向上と“同時に”スタッフの負担軽減を図る－

※）DX（デジタルトランスフォーメーション）：環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、介護サービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、風土を変革すること
（参考「DX推進指標」における「DX」の定義（経済産業省））



事業計画の重点項目

- (1)①ICT※、ロボット※・機器
 - ②外国人介護人材（目標：職員全体の10%）
 - ③高年齢者等人材（目標：職員全体の25%）
 - ④情報発信（取組報告会、研究・事例発表、ホームページ・NewsLetterなど）
- (2)ステークホルダー※（潜在的ステークホルダーを含む）とのつながり
- (3)鈴鹿グリーンホーム式 健康寿命延伸プログラムのエビデンス※構築
- (4)厚生労働省 科学的介護情報システム(LIFE)※フィードバックデータの活用
- (5)みえ福祉第三者評価※等の受審
- (6)地域に不足している介護サービスの創出（認知症対応型共同生活介護等）
・職員育成（人的パワーの蓄積）についても上記の項目を中心とする
- (7)開設30周年
 - ①1993年（平成5年）5月1日開設
 - ・特別養護老人ホーム鈴鹿グリーンホーム
 - ・ショートステイ鈴鹿グリーンホーム
 - ②1993年（平成5年）10月1日開設
 - ・デイサービスセンター鈴鹿グリーンホーム

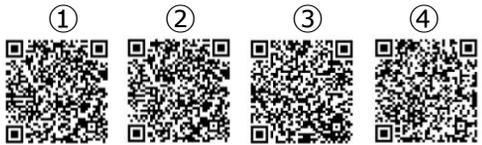


- ※）ICT：情報通信技術（Information and Communication Technology）
※）（介護）ロボット：ロボットの定義とは、以下3つの要素技術を有する、知能化した機械システム
・情報を感知（センサー系） ・判断し（知能・制御系） ・動作する（駆動系）
（厚生労働省ホームページ）
※）ステークホルダー：企業・行政・NPO等の利害と行動に直接・間接的な利害関係を有する者を指す
（「Wikipedia」）
※）エビデンス：evidence、根拠
※）厚生労働省 科学的介護情報システム（LIFE）：介護に関するさまざまなデータを収集し、それを分析してフィードバックするためのWebシステムのこと
※）みえ福祉第三者評価：三重県では、福祉サービスの内容などを利用者・事業者以外の第三者（評価機関）が評価を行い、「評価結果」を出すとともに、事業者自らが提供しているサービスを評価する「自己評価」を行い、事業者自らが課題点、問題点等の「気づき」につなげ、「改善計画」を策定し、それを実行することにより「福祉サービスの質の向上」を図る、「みえ福祉第三者評価」を実施しています
（三重県ホームページ）

- (1) ②外国人介護人材(目標：職員全体の10%)
 ③高年齢者等人材(目標：職員全体の25%) (令和6年3月31日現在)

外国人介護人材 11名 (全職員のうち 8.0%)	高年齢者等人材 26名 (全職員のうち 19.0%)
--	---

- (1) ④情報発信(取組報告会、研究・事例発表、ホームページ・NewsLetterなど)

区分・回数	方法	内容
取組報告会 計4本 ① ② ③ ④ 	全てホームページ で公開(動画) 	①外国人スタッフの紹介 ②木の温もりとテクノロジーの融合 ③「LIFE(科学的介護情報システム)」を活用したその人らしい生活 ④介護支援専門員(ケアマネジャー)の業務効率化・ICT(情報通信技術)の導入による働きやすさについて
研究・事例発表 計5本 ① ② ③ ④ ⑤ 	会場発表 会場発表 オンライン発表 ホームページ公開 ホームページ公開	①東海北陸ブロック老人福祉設 研究大会(愛知・名古屋大会) ②第2回全国老人福祉設大会・ 研究会議(JSフェスティバル in岐阜) ③介護ロボット等活用ミーティ ング ④今年度のフレイル予防事業 実施結果について ⑤Digi甲子園2024応募動画
NewsLetter 計11回	配布	・各事業におけるホームページ 等の内容(介護事業所の日々 の状況や取組等)

ホームページの状況
34,437 ユーザー ・ **284,797 ページビュー**
グリーンホームだより公開数 1,797 (4.91/日)


 公式ホームページ

(2)ステークホルダー(潜在的ステークホルダーを含む)とのつながり

①厚生労働省 令和5年度老人保健健康増進等事業 など

計 22本

実証協力 9本
回答協力 13本



2024.1 厚生労働省老健局老人保健課・株式会社三菱総合研究所 「科学的介護に向けた質の向上支援等事業」・「科学的介護情報システム(LIFE)におけるフィードバックの活用に関する調査研究事業」に関する視察・ヒアリング



2023.8 みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社 「介護サービスにおける専門職のテレワーク実証調査」協力

②その他の取組等

計 63回

行政協力 4回、視察・見学・体験受入 13回、地域協力 1回、講師派遣 9回
取材・掲載・動画等公開 11回、企業等との連携 16回、教育機関との連携 9回



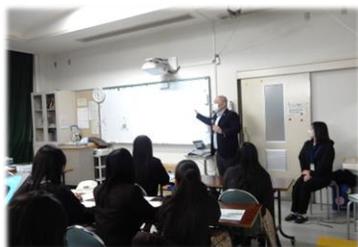
6月ドイツ ベルリン工科大学 社会学科様
「試作的実践労働環境による人間とロボットの協働の社会的構築」研究調査への協力



11月「介護ロボット等活用ミーティング」登壇



11月「みえ福祉・介護フェア2023」参画(介護ロボット体験ブース)



2月三重県立明野高校で講義(介護ロボット)



2月ユマニテク医療福祉大学校で講義(介護ICT)



3月介護ビジョン掲載

(3) 鈴鹿グリーンホーム式 健康寿命延伸プログラムのエビデンス構築

① 令和5年度 鈴鹿市フレイル[※]予防プログラム デイリーアクション事業 評価結果

・本事業は鈴鹿市から委託を受け、受託費の一部について、**プログラム実施後の成果に基づき成功報酬を受け取る**ものです（**成果連動型民間委託契約方式【PFS(Pay For Success)】**）

・評価機関：鈴鹿医療科学大学 医用工学科 医療健康データサイエンス学科

（評価日：令和6年3月25日）

・鈴鹿市からの結果通知日：令和6年4月11日

評価項目	クリアすべき指標	結果
ア) 事業参加者（65歳以上）の人数	100人以上	< 207人 （成果指標を満たす）
イ) 事業参加者のうち、日常的にフレイル予防に取り組んだ方の割合	5割以上	< 6.7割 （成果指標を満たす）
ウ) 事業参加者のうち、身体機能の維持、向上が図れた方の割合	2.5割以上	< 5.3割 （成果指標を満たす）

※全ての項目について評価指標をクリア

【令和5年度 プログラム参加者の様子】

専用のウェアラブル端末を使用



介護予防体操



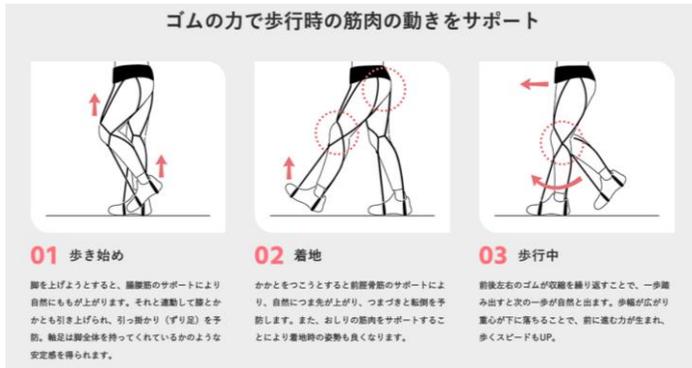
音楽レク・軽体操



※）フレイル：要介護状態に至る前段階として位置づけられています。身体的脆弱性のみならず精神・心理的脆弱性や社会的脆弱性などの多面的な問題を抱えやすく、自立障害や死亡を含む健康障害を招きやすいハイリスクな状態を意味します（「フレイル診療が100」2018年版）（日本老年医学会/国立長寿医療研究センター）

(3) 鈴鹿グリーンホーム式 健康寿命延伸プログラムのエビデンス構築

② 歩行筋サポートギア「e-foot(イー・フット)」について

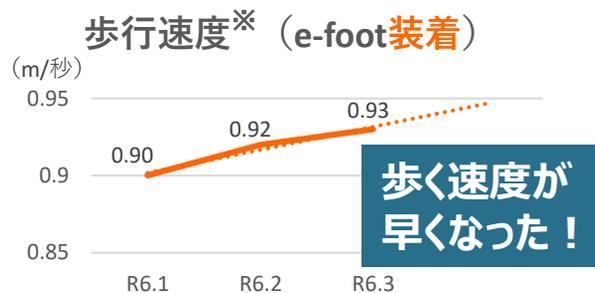
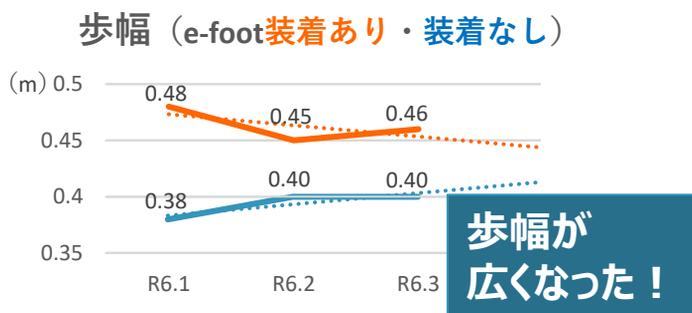


<https://www.futto.jp/>



e-foot装着による歩行状態の検証【被験者：81歳、男性、要介護2】

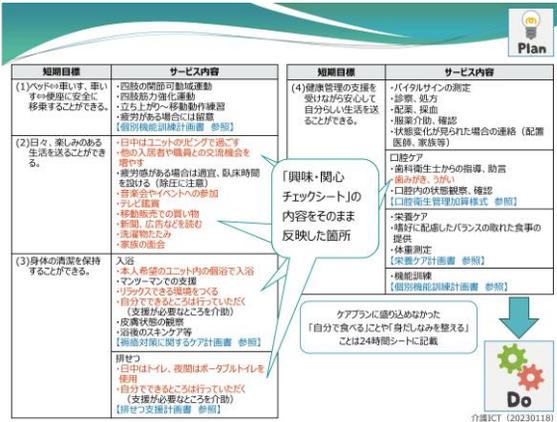
評価項目		e-foot なし (R6.1)	e-foot 装着 (R6.3)
モフ測 [※] (株式会社Moff)	TUG [※] (タイムアップ・ アンド・ゴーテスト)	起立	1.4秒 → 1.3秒 (0.1秒短縮！)
		往路	4.2秒 → 3.1秒 (1.1秒短縮！)
		ターン	2.4秒 → 1.9秒 (0.5秒短縮！)
		復路	3.7秒 → 2.9秒 (0.8秒短縮！)
		ターン	2.6秒 → 2.4秒 (0.2秒短縮！)
		着座	2.0秒 → 0.6秒 (1.4秒短縮！)
GaitBEST Majesty [※] (台湾 龍骨王)	歩行速度	0.63m/秒	0.93m/秒 (0.3m/秒増加！)
	歩幅	0.38m	0.46m(0.08m増加！)



- ※) モフ測：被験者の太ももに装着したウェアラブル端末により、TUGなどの各動作のタイムを自動で測定することができる機器
- ※) TUG：Timed Up & Go Test(TUG)は、開眼片脚起立時間とともに運動器不安定症 (MADS) の指標となっている。測定方法：Mathiusにより発表された原法は肘掛のついた椅子にゆったりと腰かけた状態から立ち上がり、3mを心地よい早さで歩き、折り返してから再び深く着座するまでの様子を観察するものである (引用：<https://www.jsmr.org/TUG.html>)
- ※) 龍骨王：4メートルの歩行を測定することで、速度や歩幅などの歩行に関する様々なデータが得られる歩行分析ソフトウェア (ホームページ：<https://www.longgood.com.tw/>)
- ※) 歩行速度：歩行速度秒速1メートル未満がサルコペニア (齢により筋肉量の減少、筋力の低下、身体能力の低下が生じた状態を指します) の診断基準 (AWGS2019) では採用されています (引用：<https://www.ncgg.go.jp/ri/advice/52.html>)

(4)厚生労働省 科学的介護情報システム (LIFE) フィードバックデータの活用

①フィードバックデータの活用



- ・全9種類のLIFE関連帳票※を見比べ、帳票間で矛盾が生じた場合などに専門職に確認することで、施設サービス計画書(ケアプラン)の改善につなげることができた
- ・サービス担当者議をオンラインで開催することにより、効率的にケアプランを更新（3月毎）することができた

②フィードバックデータの比較（特養／令和5年10月サービス提供分）

主な項目		当ホーム	差異	全国平均
要介護度		3. 93	▲0.04	3. 97
85歳以上の割合		79%	+8%	71%
障がい高齢者の日常生活自立度（B以上）		78%	±0%	78%
認知症高齢者の日常生活自立度（Ⅲ以上）		92%	+17%	75%
ADL(日常生活活動) ・維持または改善した利用者の割合および改善した利用者の割合	食事	54%	▲2%	56%
	椅子とベッド間の移乗	45%	+10%	35%
	整容	23%	+7%	16%
	トイレ動作	32%	+6%	26%
	入浴	0%	▲1%	1%
	平地歩行	28%	+8%	20%
	階段昇降	5%	±0%	5%
	更衣	30%	+5%	25%
	排便コントロール	36%	+9%	25%
	排尿コントロール	33%	+8%	25%
	BMI※（18.5以上の方の割合）	78%	+16%	62%
食事摂取量（75%以上の利用者の割合）		78%	▲3%	81%

※）LIFE関連帳票：「科学的介護推進体制に係る評価」、「口腔衛生管理加算（実施計画）」、「栄養・摂食嚥下スクリーニング・アセスメント・モニタリング」、「生活機能チェックシート」、「個別機能訓練計画書」、「排せつの状態に関するスクリーニング・計画書」、「褥瘡対策に関するスクリーニング・ケア計画書」、「自立支援促進に関する評価・支援計画書」、「興味関心チェックシート」の9種類

※）BMI：体重（kg）を身長（m）の2乗で除した値。18.5未満が低栄養リスクの指標となる

(4)厚生労働省 科学的介護情報システム (LIFE) フィードバックデータの活用



主な項目		当ホーム	差異	全国平均
低栄養のリスクレベル (血清アルブミン※ 測定あり)	低リスク	14%	▲21%	35%
	中リスク	48%	▲3%	51%
	高リスク	38%	+24%	14%
褥瘡がある利用者の割合		3%	±0%	3%
口腔の健康状態(歯・入れ歯が汚れている利用者の割合)		7%	▲19%	26%
誤嚥性肺炎の発生率		0%	▲2%	2%
【認知症行動評価尺度】DBD13 (必須項目) の合計点 (点数が低いほど認知症行動が見られない)		5.1	+0.4	4.7
【意欲の評価】 Vitality Index (自分から挨拶 する・話し掛ける、挨拶・呼びかけに対して返 答や笑顔が見られる利用者の割合)		93%	+1%	92%

③生成AIのケアプラン活用

・【施設サービス計画書(ケアプラン)原案の作成・試行】

「科学的介護推進体制に関する評価項目」(前回・直近) & 「興味・関心チェックシート」(前回・直近) 帳票の各項目を生成AIにインプット



・【看取り介護計画書原案の作成・試行】

「科学的介護推進体制に関する評価項目」(前回・直近) & 「興味・関心チェックシート」(前回・直近) 帳票の各項目を生成AIにインプット

・【栄養ケア計画書原案の作成・試行】

「栄養スクリーニング・アセスメント・モニタリング(施設)」帳票の各項目を生成AIにインプット

▷上記いずれの場合においても満足度の高い計画書原案を作成することができた

▷試行から得られた生成AIの特徴:

- ・課題を漏れなくアウトプットしてくれる
- ・前回と直近のデータをインプットした方が計画原案に反映されやすい
- ・生成AIが読み取りやすい文章と読み取りが曖昧になる文章があることがわかった



③機能訓練・栄養・口腔 一体的計画書の作成

新帳票「機能訓練・栄養・口腔」一体的計画書の使用を開始(令和6年3月)

- ・各分野の課題やデータを並べることで、利用者の新たな課題を見つけ出すことにつながった
- ・新しい一体的計画書はケア向上の有効なツールとなり得ることがわかった

※) 血清アルブミン: 血漿タンパク質, 3.0~3.5g/dlを低栄養リスク「中リスク」、3.0g/dl未満を低栄養リスク「高リスク」と評価する

(5) みえ福祉第三者評価等の受審



① デイサービスセンター受審分（みえ福祉第三者評価）

・平成29年度受審結果（53項目）

A評価	38 (72%)
B評価	15 (28%)
C評価	0 (0%)

・令和5年度受審結果（45項目）

A評価	37 (82%)
B評価	18 (18%)
C評価	0 (0%)



▷ Aほど評価が高い

② グループホーム悠々受審分（地域密着型サービス外部評価）

★サービスの成果に関する項目（アウトカム評価）

・令和4年度受審結果（13項目）

評価1	9 (69%)
評価2	1 (8%)
評価3	2 (15%)
評価4	1 (8%)

・令和5年度受審結果（13項目）

評価1	9 (69%)
評価2	3 (23%)
評価3	1 (8%)
評価4	0 (0%)



▷ 1ほど評価が高い



グループホーム悠々の外部評価結果 (wam.go.jp)

(6) 地域に不足している介護サービスの創出(認知症対応型共同生活介護等)

令和5年5月1日

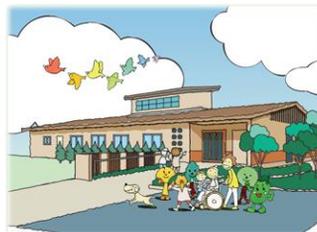
グループホーム悠々

(鈴鹿市伊船町2943番地4)

デイサービス悠々

(鈴鹿市伊船町2229番地9)

の事業を譲受



(8) その他

①ADL利得[※]【日々の機能訓練・自立支援介護の成果】（令和6年3月現在）

ADL維持等加算 算定サービス種別	評価指標	ADL利得
特別養護老人ホーム	1.0 ≦	2.4
デイサービスセンター	1.0 ≦	2.2
デイサービス悠々	1.0 ≦	3.0

②「テクノロジー」×「質向上」×「生産性向上」に向けた利活用状況

【課題1】業務中の歩く距離や時間を短縮したい！

【課題2】夜間業務での訪室回数を減少させたい！

使用ツール	テクノロジーの使い方	導入機器名
(1)見守り支援ロボット (カメラ系)	・【居室】通知時のデバイス確認	Neos+Care(ネオケア) (40台)
	・【居室】通知時のデバイス確認 ・【居室】介護業務分析支援機能の活用(業務標準化)	HitomeQ(ヒトメク) (10台)
(2)AIカメラシステム	・【居室・共用部】通知時のデバイス確認	VCare(ブイケア) (15台)
(3)排せつ予測ロボット	・排せつリズムの把握 ・通知時のデバイス確認	DFree(ディフリー) (1台)
デバイス(スマートフォン)		iPhone(18台)

【課題3】腰痛を予防[※]したい！

使用ツール	テクノロジーの使い方	導入機器名
(1)スライディングボード 介助バー 移動設置型立ち上がり用手すり モジュール型車いす	・軽度利用者の移乗を支援(自立支援) 厚生労働省 職場における腰痛予防対策指針.pdf (mhlw.go.jp)	 
(2)床走行式電動リフト	・中程度利用者の移乗	KQ781(3台)
(3)非装着型移乗支援機器	・中重度利用者の移乗	SASUKE(サスケ)(1台) i-PAL(アイパル)(1台) スカイリフト(1台)

- ※) ADL利得：ADL(日常生活動作)10項目について定期的に評価を行い、前対象月と直近対象月との測定ADL値を差し引き、定められた点数調整を行ったもの
ADL利得が「1.0」以上の場合は、ADLの状態が維持又は改善されているとして加算の評価対象となります
ADLの10項目は食事・移乗・整容・トイレ・入浴・歩行(移動)・階段昇降・更衣・排便・排尿で、利用者の自立・介助の状況に応じて各項目を15点・10点・5点・0点で評価します
- ※) 腰痛予防：厚生労働省「職場における腰痛予防対策指針」2 人力による重量物の取扱い…(1)人力による重量物取扱い作業が残る場合には、作業速度、取扱い物の重量の調整等により、腰部に負担がかからないようにすること、(2)満18歳以上の男子労働者が人力のみにより取り扱う物の重量は、体重のおおむね40%以下となるように努めること、満18歳以上の女子労働者では、さらに男性が取り扱うことのできる重量の60%位までとすること

使用ツール	テクノロジーの使い方	導入機器名
(4)スライディングシート	・ 重度利用者のベッド上での ポジション移動	
(5)装着型移乗支援機器	・ 中重度利用者の移乗	J-PAS fleairy(1台) マッスルスーツEvery(2台) マッスルスーツSoftPower(3台)
(6)機械浴（個浴）	・ 軽度利用者の入浴（浴槽、洗 い場間の移乗の自立支援）	ボランテ（7台）
(7)リフト浴	・ 中程度利用者の入浴（浴槽、 洗い場間の移乗）	つるべーF2R（6台）
(8)機械浴（車いす浴）	・ 中程度利用者の入浴（浴槽、 洗い場間の移乗）	OG技研 HK（2台）
(9)機械浴（寝台浴）	・ 重度利用者の入浴（浴槽、ス トレッチャー間の移乗）	OG技研 HK（1台）

【課題4】 2人介助の場面を減らしたい！

使用ツール	テクノロジーの使い方	導入機器名
(1)スライディングシート	・ 重度利用者のベッド上での ポジション移動	
(2)床走行式電動リフト	・ 中程度利用者の移乗	KQ781（3台）
(3)機械浴（個浴）	・ 軽度利用者の入浴を支援	ボランテ（7台）
(4)リフト浴	・ 中程度利用者の入浴	つるべーF2R（6台）
(5)機械浴（車いす浴）	・ 中程度利用者の入浴	OG技研 HK（2台）
(6)機械浴（寝台浴）	・ 重度利用者の入浴	OG技研 HK（1台）
(7)非装着型移乗支援機器	・ 中重度利用者の移乗	SASUKE(サスケ)（1台） i-PAL(アイパル)（1台） スカイリフト（1台）
(8)装着型移乗支援機器	・ 中重度利用者の移乗	J-PAS fleairy(ジエイパスフレア リ)（1台） マッスルスーツEvery（2台） マッスルスーツSoftPower（3台）

【課題5】 外国人介護人材を活用したい！

使用ツール	テクノロジーの使い方	導入機器名
(1)介護記録ソフト （タップ入力・翻訳機能・ 音声入力・予測変換等）	・ 介護記録への入力 R6.2「ヒヤリハット報告書」 を作成することができた！	BlueOceanNOTE II （20ライセンス）
(2)インカム （トランシーバー）	・ 日常の現場業務（業務連絡、 依頼、質問、確認）	TPZ-D510等（69台）
デバイス（タブレットPC、スマートフォン）		Surface（20台） iPhone（18台）

【課題6】 高齢人材を活用したい！

使用ツール	テクノロジーの使い方	導入機器名
(1)リフト浴	・ 中程度利用者の入浴	つるべF2R(6台)
(2)床走行式電動リフト	・ 中程度利用者の移乗	KQ781(3台)
(3)非装着型移乗支援ロボット	・ 中重度利用者の移乗	SASUKE(1台) i-PAL(1台) スカイリフト(1台)
(4)装着型移乗支援ロボット	・ 中重度利用者の移乗	J-PAS fleairy(1台) マッスルスーツEvery(2台) マッスルスーツSoftPower(3台)
(5)インカム (トランシーバー)	・ 日常の現場業務（業務連絡、依頼、質問、確認の効率化）	TPZ-D510等（69台）

【課題7】 スタッフの精神的な負担を軽減したい！

使用ツール	テクノロジーの使い方	導入機器名
(1)見守り支援ロボット (カメラ系)	・ 【居室】 通知時のデバイス確認	Neos+Care(ネオケア) (40台)
	・ 【居室】 通知時のデバイス確認 ・ 【居室】 介護業務分析支援機能の活用（業務標準化）	HitomeQ(ヒトメク) (10台)
(2)見守り支援ロボット (マット系)	・ 【ベッド上】 呼吸、脈拍、睡眠・覚醒、離床・臥床、長座位・端座位	眠りSCAN（15台）
	・ 【ベッド上】 体動、心拍、呼吸、離床・臥床状況 ・ ナースコール通知（付加機能）	安心ひつじα（28台）
(3)AIカメラシステム	・ 【居室】 通知時のデバイス確認	VCare(ブイケア)(15台)
(4)インカム (トランシーバー)	・ 日常の現場業務（業務連絡、依頼、質問、確認の効率化）	TPZ-D510等（69台）
デバイス（スマートフォン）		iPhone（18台）

【課題8】 情報伝達、情報連携を効率化したい！

使用ツール	テクノロジーの使い方	導入機器名
(1)インカム (トランシーバー)	・ 日常の現場業務（業務連絡、依頼、質問、確認の効率化） ・ 停電時（非常災害時）の連絡	TPZ-D510等 (69台)
(2)介護記録ソフト	・ 介護業務内容共有 ・ 介護計画書、科学的介護情報システム（LIFE）関連帳票の共有 ・ 24時間シートの共有 ・ 申し送り事項の共有	BlueOceanNOTE II (20ライセンス)

使用ツール	テクノロジーの使い方	導入機器名
(3)部署間電子メール	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部署やユニットを超えた連絡、情報伝達、情報共有 ・ 資料・URL・二次元バーコード等の添付が必要なデータの送受信 	Gmail 
(4)NAS（ネットワークHDD）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部署やユニットを超えた連絡、情報伝達、情報共有 ・ 大容量のデータの受け渡し 	
(5)情報連携アプリ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同部署内の業務情報の連携、共有 	LINEWORKS (1ライセンス)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全職員への一斉送信 	LINEオープンチャット
(6)オンライン会議アプリ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移動時間の短縮 ・ テレワーク、在宅ワーク ・ オンライン研修 	Zoom GoogleMeet MS TEAMS など
(7)カレンダーアプリ	<ul style="list-style-type: none"> ・ スケジュール共有 	Googleカレンダー
(8)通話アプリ	<ul style="list-style-type: none"> ・ iPhone間の通話 	FaceTime
デバイス（スマートフォン、タブレットPC）		iPhone（18台） Surface（20台）

【課題9】記録業務を効率化したい！

使用ツール	テクノロジーの使い方	導入機器名
(1)介護記録ソフト	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペーパレス保管（記録は1回、転記・綴り直し業務は不要） ・ 氏名、年齢、要介護度など、同一項目・複数回の入力不要 ・ 要約機能の活用 ・ タップ入力、音声入力、翻訳機能、予測変換機能の活用 ・ 申し送りなどの必要な項目を選択して出力 ・ 見守り支援機器から得られた情報は自動記録 	BlueOceanNOTE II (20ライセンス) 
(2)音声入力ソフト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援経過など、多くの文書入力が必要な記録に活用 	VoiceFun(ボイスファン) (6ライセンス)
(3)Moffバンド (ウェアラブル端末)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機能訓練のアセスメント・評価をデジタルバンドで自動記録 	Moffバンド（15本） ・ 専用アプリ

使用ツール	テクノロジーの使い方	導入機器名
(4)HUR(7-)スマートタッチ（ウェアラブル端末とアプリを使用したトレーニングマシン）	・トレーニングマシンの実施記録を自動記録	HURスマートタッチ用ウェアラブル端末（5本）・専用アプリ
(5)VPN [※] 接続	・外部での記録入力、データ出力（モバイルWifiルーターまたはデザリング、介護記録ソフトの組み合わせ）	
(6)NAS（ネットワークHDD）	・部署やユニットを超えた連絡、情報伝達、情報共有 ・大容量のデータの受け渡し	
デバイス（スマートフォン、タブレットPC）		iPhone（18台） Surface（20台）など

③研修受講 延べ1,331名が受講！

区分	延べ受講者数	回数
事業所「内」研修	795名	44回
事業所「外」研修	510名	88回
新任職員（採用時のしおり）研修	26名	20回

④ご利用者・ご家族アンケート結果

調査期間：令和5年8月1日～9月30日

回答数：特養 51、DS 88、GH悠々 7、DS悠々 16

回答率：特養 72.9%、DS 76.5%、GH悠々 77.8%、DS悠々 88.9%



設問	はい（満足）・ややはい（やや満足） 回答割合			
	特養	DS	GH悠々	DS悠々
1.ホーム(事業所)の目指している理念、サービスの提供方針をご存知ですか？	82.0%	75.0%	85.7%	86.7%
2.ホーム(事業所)のサービスを利用することで、本人の生き生きとした表情や姿は見られますか？	86.3%	87.4%	85.7%	100.0%
3. 職員の対応や態度、雰囲気はおおむね好ましいですか？	96.1%	98.9%	100.0%	93.8%
4.ホーム(事業所)全体は、生活の場として清潔感や明るさ、雰囲気はおおむね好ましいですか？	96.1%	85.1%	100.0%	87.5%

※) VPN (Virtual Private Network、仮想プライベートネットワーク)：パブリックネットワーク内に構成されるプライベートネットワーク
2つの拠点間に、仮想的に「直接的な接続」を構築することで実現できる (Wikipedia)

設問	はい（満足）・ややはい（やや満足） 回答割合			
	特養	DS	GH悠々	DS悠々
5.ご本人やご家族の個人情報やプライバシーは適切に保護されていますか？	90.2%	87.5%	85.7%	87.5%
6.台風、地震、火災等の対策や緊急時における利用者の安全確保の体制は整っていると思いますか？	68.6%	66.7%	57.1%	71.4%
7.感染症の情報やその対策、ホーム全体の衛生管理など、衛生面での配慮がなされていますか？	86.3%	85.2%	100.0%	93.3%
8.ご本人の日々の暮らしぶりや健康状態に変化があったときなどに、ご家族との連携をとりながら適切な対応がされていますか？	94.1%	95.1%	100.0%	93.3%
9.外部からの侵入などに対して防犯対策がなされていると思いますか？	84.0%	53.1%	71.4%	66.7%
10.入居の際、ホーム(事業所)の理念や方針、具体的なサービス内容や費用等について、説明がありましたか？	94.1%	91.5%	100.0%	93.3%
11.ご本人に対するサービスは、職員間で統一した対応がされていますか？	80.0%	85.4%	83.3%	93.3%
12.職員は、ご本人やご家族の思いや要望等を汲み取ってケアをしていると思いますか？	92.0%	93.9%	100.0%	93.3%
13.ご本人やご家族からの意見や苦情を述べやすい雰囲気や環境が整っていますか？	83.7%	90.6%	100.0%	92.9%
14.ご本人やご家族からの意見や苦情に対して、ホーム(事業所)から説明がありますか？	68.1%	79.8%	85.7%	84.6%
15.食事の内容や提供状況は満足していますか？	79.6%	78.4%	100.0%	100.0%
16.入浴や排せつ等のサービスの提供状況は満足していますか？	79.6%	92.9%	57.1%	100.0%
17.当ホーム(事業所)は介護業務の負担軽減や働き方の改善を目的として、介護機器や介護ロボットなどのテクノロジーを使用しています。このような新しい技術を使用した介護についてどのように感じられますか？	85.7%	70.6%		
18.ご本人の私物の管理は適切に行われていると思いますか？	82.4%	98.7%	85.7%	100.0%
19.職員の接遇（言葉遣い、応対）や身だしなみに満足されていますか？	98.0%	98.9%	100.0%	84.6%
20.ご家族から見て職員は生き生きと働いているように見えますか？	94.0%	90.8%	56.1%	92.9%





⑤職員アンケート結果

調査期間：令和5年8月1日～8月31日、回答者 129名、回答率 100%

設問	回答割合
1.組織の理念や基本方針を理解していますか？	はい 96.9%
2.職場の上司からは、明確な指示・命令がありますか？	はい 92.2%
3.職場の上司からは、適切なアドバイスがありますか？	はい 90.6%
4.職場には、困ったときや悩んだときに相談できる同僚がいますか？	はい 90.7%
5.職場の雰囲気（例えば人間関係等）に満足していますか？	はい 85.3%
6.必要に応じて職種間（部門間）における連携がとれていますか？	はい 89.1%
7.職員間のコミュニケーション（報告・連絡・相談）がとれていますか？	はい 87.4%
8.職員会議などで自由に意見が言える雰囲気はありますか？	はい 76.0%
9.組織の意思決定や課題解決の取組みにあなたの意見は反映されていますか？	はい 72.7%
10.あなたの所属している組織は、専門性を高めるための機会（教育・研修）を設けてくれていますか？	はい 89.8%
11.あなたの所属している組織は、あなたを信頼して仕事を任せてくれていると思いますか？	はい 93.8%
12.緊急時（事故・災害・感染症の発生時など）における利用者の安全確保の為の取組みを行っていますか？	はい 95.3%
13.利用者を尊重する姿勢でサービスを提供していますか？	はい 95.3%
14.サービスの質の向上のための仕組みがありますか？	はい 88.2%
15.サービスの開始及び終了の際に、利用者が環境の変化に対応できるような支援を行っていますか？	はい 91.3%
16.サービス実施計画を策定し、実施していますか？また、必要に応じて計画の見直しを行っていますか？	はい 85.0%
17.総合的にみて職場の労働環境にどの程度満足していますか？	満足・やや満足 78.3%
18.組織内における仕事の進め方・やり方にどの程度満足していますか？	満足・やや満足 80.6%

⑥CI※調査結果（株式会社コミュニケーション科学研究所様 調査）

調査期間：令和6年2月27日～3月11日、回答数：140名、回答率：94.2%

設問		スタッフ評価	施設長予測
1. 経営理念	①共有化	7.6	7.0
	②行動化	6.0	6.0
2. 組織の基礎的 コミュニケーション指標 	個人間 コミュニケーション	①仕事の相談可	7.9
		②個人的な相談可	6.3
		③困った時の相談	7.9
		④丁寧な意見対応	7.5
		⑤理解可能な伝達	8.0
		⑥納得できる対応	7.8
		⑦納得できる評価	7.3
	他部門との コミュニケーション	①仕事の連携	6.9
		②業務の問題点の共有	6.9
		③円滑な情報伝達	6.5
		④明確な情報ルート	6.6
		⑤他部門との交流	5.3
		⑥他部門との縄張り意識	5.4
		⑦明確な責任の所在	6.1



⑦生徒・学生に対する介護のイメージアップ・理解促進

日付	相手		内容
9月12日	名古屋大学 情報学部 社会情報学科 学生	見学、インタビュー	介護ロボット・ICTについて
9月12日～15日	鈴鹿市立鈴峰中学校 生徒	職場体験	介護サービスのしごと・介護ロボット体験
10月13日 10月20日	国際医療科学大学 学生	講義	・「ICT・科学的介護情報システム(LIFE)・栄養」 ・「ICTを活用したフレイル予防プログラム」
11月5日	地域の小学生等	みえ福祉・介護フェア2023	介護ロボット体験コーナー担当
11月28日 ～12月1日	鈴鹿市立白鳥中学校 生徒	職場体験	介護サービスのしごと体験
12月12日 2月15日	紀北町 潮南中学校 生徒 三重県立明野高等学校 学生	講義	福祉・介護の魅力発信事業(介護ロボットの講義)
1月26日	県外高校生より	メールに寄せられた質問への回答	「施設で働く介護ロボットについて」
1月～2月	ユマニテク医療福祉大学校 介護福祉学科 1・2年生	講義	テーマ「介護・ICT」
2月12日～16日	鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部 医療栄養学科 管理栄養学専攻	管理栄養士臨地実習	給食経営管理論

⑧三重県災害派遣福祉チーム（DWAT）への協力

令和6年3月12日～17日：職員1名派遣(輪島市 輪島中学校 及び 輪島高等学校)

※) CI (コーポレートアイデンティティ)：企業文化を構築し特性や独自性を統一されたイメージやデザイン、またわかりやすいメッセージで発信し社会と共有することで存在価値を高めていく企業戦略の一つ (Wikipedia)

令和5年度収支決算

[自：令和5年4月1日／至：令和6年3月31日]

(単位：千円)

勘定科目		収支決算	備考	
サービス活動増減の部	収益	介護保険事業収入	792,299.2	
		サービス活動収益計	799,299.2	
	費用	人件費	544,704.9	
		事業費	116,358.7	
		事務費	85,763.9	
		利用者負担軽減額	341.0	
		減価償却費	64,507.1	
		国庫補助金等特別積立金取崩額	5,700.3	
		サービス活動費用計	805,965.3	
サービス活動増減差額		▲13,666.1		
増減の部 サービス活動外	収益	サービス活動外収益計	5,661.9	
	費用	サービス活動外費用計	11,363.8	
	サービス活動外増減差額		▲5,701.9	
経常増減差額		▲19,368.0		
特別増減の部	収益	特別収益計	0.0	
	費用	特別費用計	4,880.0	
	特別増減差額		▲4,880.0	
当期活動増減差額		▲24,248.1		

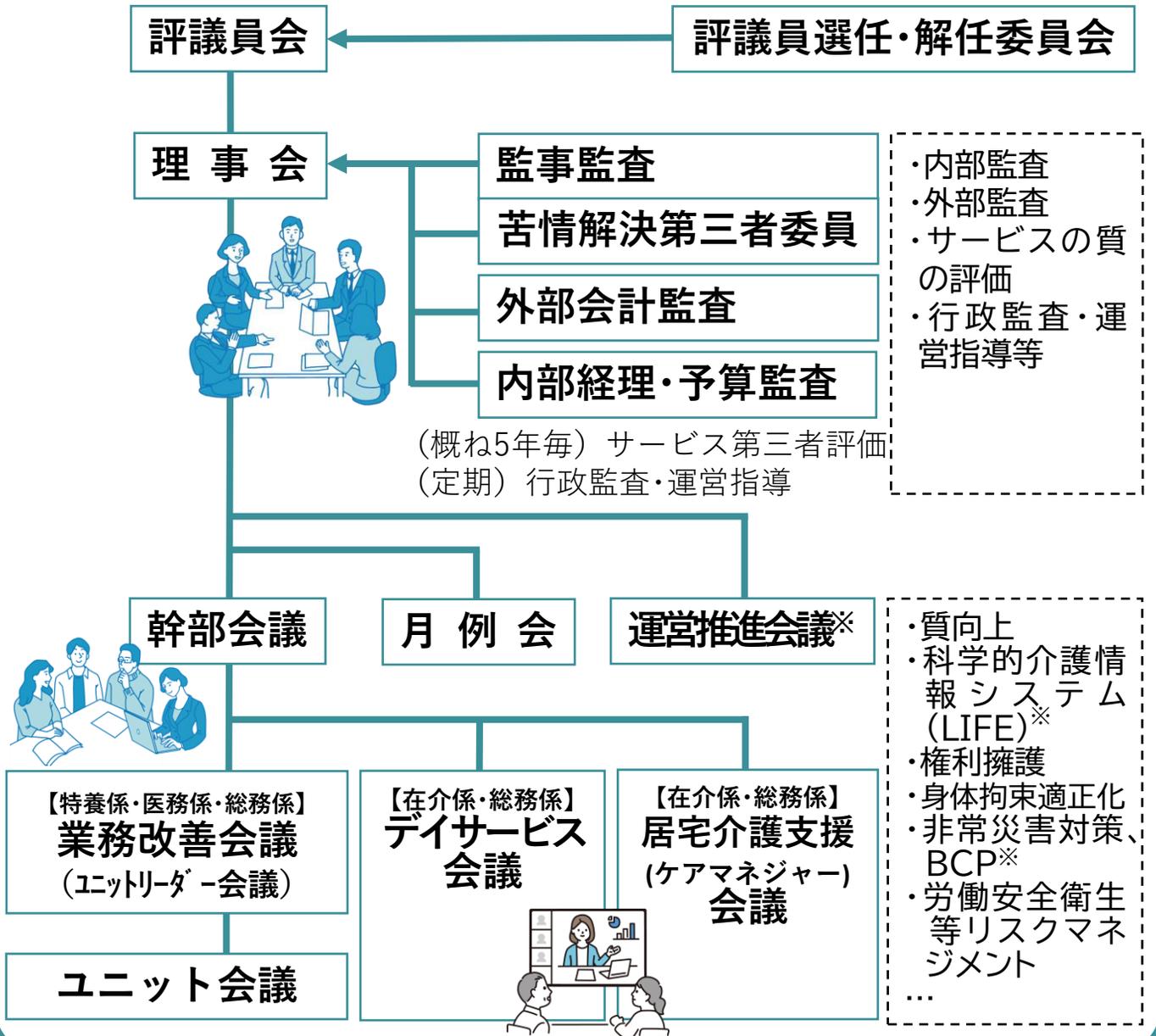
千円単位の表記のため合計額に誤差が生じることがあります。



令和5年度 事業報告書 附属明細書

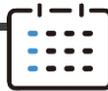


運営体制（ガバナンス）



- ※)運営推進会議：地域密着型サービス事業所が、利用者、市職員、地域住民の代表者等に対し、提供しているサービスの内容等を明らかにすることにより、地域に開かれたサービスとすることで、サービスの質を確保することを目的として設置
- ※) 科学的介護情報システム (LIFE)：介護に関するさまざまなデータを収集し、それを分析してフィードバックするためのWebシステムのこと
 - ①エビデンスに基づいた介護の実践
 - ②科学的に妥当性のある指標等の現場からの収集・蓄積及び分析
 - ③分析の成果を現場にフィードバックすることで、更なる科学的介護を推進
- ※)BCP (Business Continuity Planning、事業継続計画)：災害時に特定された重要業務が中断しないこと、また万一事業活動が中断した場合に目標復旧時間内に重要な機能を再開させ、業務中断に伴う顧客取引の競合他社への流出、マーケットシェアの低下、企業評価の低下などから企業を守るための経営戦略バックアップシステムの整備、バックアップオフィスの確保、安否確認の迅速化、要員の確保、生産設備の代替などの対策を実施する (内閣府ホームページ)

【主な行事等 実施状況】

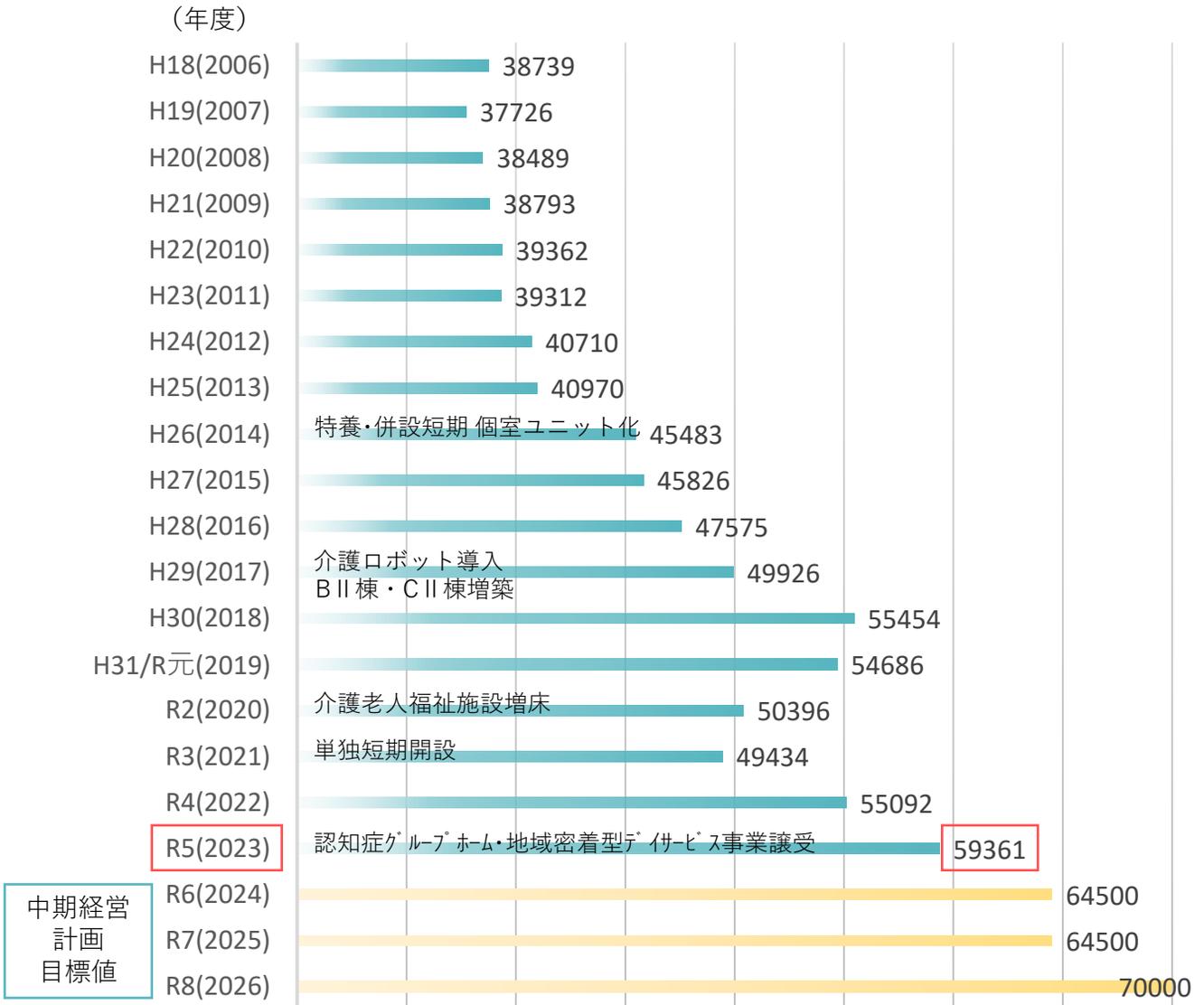


月	在介係		総務係		医務係	特養係		在介係	
	居宅介護支援	デイサービスセンター	総務	栄養調理		特養	SS		GH悠々
4月				井戸水検査					
5月					入居者定期健康診断 /レントゲン検査				
								事業譲受	
	創立30周年記念行事（食事会） / 消防用設備等法定点検							運営推進会議	
	事業継続計画（BCP）一部改正								
			内部経理・ 予算監査	調理施設 害虫等駆除					
			監事監査						
			理事会						
6月			定時評議員会				運営推進会議		
	基本介護OJTチェックリスト研修(安全対策・人権擁護・虐待防止・身体拘束適正化・BCP) / 上期人事考課 / 新型コロナウイルスワクチン接種								
	非常災害用排せつ用品入替								
8月	職員健康診断 / 職員アンケート								
	利用者・家族アンケート								
							運営推進会議		
9月	敬老祝賀食事会 / 消防訓練(シミュレーション訓練を含む) / 職場体験学習(鈴峰中学校)							運営推進会議 / 消防用設備等法定点検	
10月	新型コロナウイルスワクチン接種 / 消防訓練(夜間想定) / 事業継続計画（BCP）一部改正								
11月	取組報告会（動画公開）インフルエンザ予防接種 / 消防用設備等法定点検								
	職員目標設定								
			理事会	調理施設 害虫駆除				運営推進会議	
		評議員会	給食施設運営 状況報告						
12月				災害用備蓄 食品入替	歯科検診(入居者)			職場体験学 習受入(白鳥 中学校)	
	クリスマス会								
	基本介護OJTチェックリスト研修(安全対策・人権擁護・虐待防止・身体拘束適正化・BCP) / 下期人事考課 / 大掃除								
1月	普通救命講習・喀痰吸引等研修							運営推進会議	
	下期人事考課(パートタイマー) / 事業継続計画（BCP）一部改正								
3月	職員健康診断(夜勤者等対象)								
			理事会	管理栄養士 臨地実習受 入(鈴鹿医療 科学大学)			消防訓練 (夜間想定)	消防訓練	
			評議員会				消防用設備等法定点検		
	運営推進会議								
通年	月例会(原則毎月1日) / 幹部会議(原則毎月20日) / 採用時研修・勉強会・外部研修 / 新型コロナウイルス感染症抗原検査 / 訪問理容								
	定例会 議(原則 毎週)	定例会議 (原則毎 月10日)	業務改善会議・給食会議・感染症等(感染症・食中毒)まん延防止会議(毎月)					定例会議 (毎月)	
		音楽会・ ボイストレ ーニング / 理容の日	昇降機・ 浄化槽等 定期点検			ユニット会議(毎月) / 歯科衛生士による口腔衛 生管理 (月2回) / 訪問理容			
			歯科衛生士口腔衛生管理 (24回) / 移動販売車両等の 来苑 (48回) など					音楽会・ボイストレーニング	
	不定 期	ケアプ ラン点 検	認知症介 護基礎研 修				認知症介護基礎研修		
ボランティア・実習生・職場体験(学習・インターンシップ)・見学等の受け入れなど									

※音楽会開催：会場254回、オンライン配信236回（同時配信を含む） 計490回



延べ利用者数の推移（H18－R5）



- H18 (7事業) : 特別養護老人ホーム、併設ショートステイ、デイサービスセンター、訪問介護、居宅介護支援、配食サービス、介護予防事業
- H19 (5事業) : 特別養護老人ホーム、併設ショートステイ、デイサービスセンター、居宅介護支援、介護予防事業
- H23 (6事業) : 特別養護老人ホーム、併設ショートステイ、デイサービスセンター、地域密着型デイサービス、居宅介護支援、介護予防事業
- H25 (5事業) : 特別養護老人ホーム、併設ショートステイ、デイサービスセンター、居宅介護支援、介護予防事業
- R 3 (6事業) : 特別養護老人ホーム、併設ショートステイ、単独型ショートステイ、デイサービスセンター、居宅介護支援、介護予防事業
- R 5 (8事業) : 特別養護老人ホーム、併設ショートステイ、単独型ショートステイ、デイサービスセンター、認知症グループホーム、地域密着型デイサービス、居宅介護支援、介護予防事業

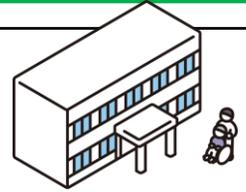
特別養護老人ホーム鈴鹿グリーンホーム

【事業概要】

➤ 介護老人福祉施設（三重県指定 第2470300274号）

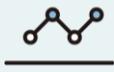
➤ 定 員：80床 [8ユニット]

➤ 類 型：ユニット型※・全室個室 [ショートステイ空床利用可]



2023.4-2025.3目標：「介護のイメージを変える、イメージが変わる」
今年度目標：今できるうちに「とりあえず、色々やってみる！」

【令和5年度事業計画に対する評価】 ☀️・☁️・☔️の3段階で評価

計画内容		評価の視点	評価
(1)科学的介護情報システム（LIFE）活用 	生活の質向上と自立支援に向けた介護の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・LIFE関連加算8つ中、7つの加算を算定 ・フィードバック事業所票の分析・活用、サービスの質の変化の確認 ・事業所票の自施設データの公開 ・LIFEデータのケアプラン・栄養ケア計画の試行 ・生成AI活用を試行 	☀️
(2)外国人介護人材の雇用増	5名→目標7~8名	<ul style="list-style-type: none"> ・9名（在留資格介護・特定技能・技能実習生・留学生） 	☀️
(3)テクノロジー（ICT・ロボット）の活用・追加実装		<ul style="list-style-type: none"> ・AIカメラシステムVCare(ブ 竹ア)：15台導入 ・マッスルスーツEvery：1台追加 ・マッスルスーツSoftPower：3台導入 	☀️/☁️
(4)法定研修の受講		<ul style="list-style-type: none"> ・認知症介護基礎研修、事業継続計画研修等受講 	☀️
(5)イベントの企画、実施		<ul style="list-style-type: none"> ・創立記念、敬老祝賀、クリスマス時期に各ユニットでの食事会に留まった 	☁️
(6)外部機関等との積極的な意見交換 		<ul style="list-style-type: none"> ・71回実施（事業報告書 附属明細書「(2)ステークホルダー（潜在的ステークホルダーを含む）とのつながり ②その他の取組等」をご参照ください） 	☀️
(7)調査、実証等への積極的な協力		<ul style="list-style-type: none"> ・23回協力（事業報告書 附属明細書「(2)ステークホルダー（潜在的ステークホルダーを含む）とのつながり ①厚生労働省 令和5年度老人保健健康増進等事業等」をご参照ください） 	☀️
(8)認知症BPSD※ケアプログラムの取組		<ul style="list-style-type: none"> ・1名受講（インストラクター取得） 	☀️
(9)情報発信		<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ「グリーンホームだより」カテゴリー“特別養護老人ホーム”：709本 	☀️
(10)その他		<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省「令和6年度 介護職員の働きやすい職場環境づくり」応募 	☀️

※) ユニット(型)：10人を1ユニット(生活単位)として、家庭的な居住環境のもとで、顔なじみのケアスタッフにより、ご入居者お一人おひとりの個性と生活リズムを把握したケアと、ご入居者同士が相互に社会的関係を築くことを支援するケアを受けることができます

※) Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia：認知症に伴う行動・心理症状

(10)その他

①ユニットケアチェックリスト※ (53項目)

・ 令和5年5月1日現在

・ 令和6年3月31日現在

	○	△	×
こすもすユニット	47	4	2
ひまわりユニット	47	5	1
けやきユニット	38	10	5
さくらユニット	48	4	1
すずらんユニット	50	1	2
すみれユニット	48	5	0
いちょうユニット	52	1	0
ひのきユニット	51	2	0
計	381	32	11



	○	△	×
こすもすユニット	47 (±0)	6 (+2)	0 (▲2)
ひまわりユニット	45 (▲2)	6 (+1)	2 (+1)
けやきユニット	43 (+5)	7 (▲3)	3 (▲2)
さくらユニット	49 (+1)	3 (▲1)	1 (±0)
すずらんユニット	49 (▲1)	2 (+1)	2 (±0)
すみれユニット	47 (▲1)	5 (±0)	1 (▲1)
いちょうユニット	51 (▲1)	2 (+1)	0 (±0)
ひのきユニット	51 (±0)	2 (±0)	0 (±0)
計	382 (+1)	33 (+1)	9 (▲2)

※) ユニットケアチェックリスト：ユニット施設管理者研修・ユニットリーダー研修で学んだユニットケアの展開に関するポイントを「1.個別ケアの基本について」・「2.入居者が自分の住まいと思えるために」・「3.入居者のそれぞれ暮らしを続けてもらうために」・「4.ケアの質を保つために」の4つの章、計53項目をチェックリスト形式にしたもので、各ユニットにおいてユニットケアの質を評価することを目的として毎月チェックを行うこととしています

医務係

目標：職員一人一人の資質向上
質の高いサービスを効率的、安定的に提供する

【令和5年度事業計画に対する評価】 ☀️・☁️・☔️の3段階で評価

計画内容	評価の視点	評価
(1) 医療的支援	配置医との連携強化推進	☀️
医療ニーズの高い利用者様への支援	(短期入所を含む) ・経管栄養：5名 ・排尿カテーテル：6名 ・人工肛門のケア：2名 ・インスリン注射：2名 ・褥瘡ケア：11名 ・吸痰ケア：20名程度 ・病院受診：55回以上 ・必要なお入居者の支援、特養ご入居者定期健康診断、レントゲン検査	☀️
(2) 看取りケアの充実	看取り診断後のケア計画作成・施行手順の共有強化を図る 入居者様・家族様と多職種とのアドバンス・ケア・プランニング(ACP)※についての話し合い推進	☀️/☁️
各ユニット会議等でグリーンケア・偲びのカンファレンスを行い今後のケア向上を図る	22名以上施行	☀️
特養での看取りケア・短期入所での看取りケア・在宅での看取りケア支援	看取りケア(特養22名、短期入所1名)	☀️
(3) 感染症予防の徹底、発生時の対応	各会議で感染対策について発信できた	☀️
感染まん延発生を想定した対策・訓練シミュレーションの実施	年間3回実施	☀️
各種予防接種の実施(インフルエンザ・新型コロナ・肺炎球菌)	入居者・職員に対して3回以上実施	☀️
検査キットの積極的な活用	・150回以上検査実施 ・全職員の社会的抗原検査実施(R5年4月～R6年3月)	☀️

※) アドバンス・ケア・プランニング(ACP)：もしものときのために、自分が望む医療やケアについて、前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取組(厚生労働省) 愛称は「人生会議」

	計画内容	評価の視点	評価
(4) 認知症高齢者への支援・ケア向上 	苦痛緩和や意思決定の尊厳を保持したケアの推進 適切なケアを行うために情報収集、アセスメントを行う	<ul style="list-style-type: none"> 多職種連携し既往歴、生活背景など家族様から情報収集を行い、本人様の好まれる環境を作り、苦痛緩和や意思決定につなげた 	☀️/☁️
	安全を確保し、行動制限をしない《快》なケアを提供する	<ul style="list-style-type: none"> リスクマネジメントの評価・身体拘束適正化会議を各会議や定期的実施 	☀️
(5) ADL [※] 維持・向上 →「生活の質」向上	科学的介護情報システム(LIFE)：自立支援促進、褥瘡予防・褥瘡マネジメントなど個別機能訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、評価・計画作成・実施施行 	☀️
		<ul style="list-style-type: none"> 専門職によるケア計画・実施施行 	☀️
(6) 事業の改善・効率化・継続的な取り組み	ICTや機器の活用促進・応用・「サービスの質」と「業務の負担軽減」の両立を図る	<ul style="list-style-type: none"> インカム、介護記録ソフト(BlueOceanNOTE II)、Web・動画研修、バイタルリンク活用 	☀️
	科学的介護情報システム(LIFE)への継続的な取り組み・支援強化	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、評価・計画作成・実施施行 	☀️
	優先度を設定し業務の分担化を亢進・継続	<ul style="list-style-type: none"> 部署内の業務分担を行い、各業務マニュアル作成実施 	☀️
(7) 権利擁護・虐待防止・身体拘束適正化・緊急時の対応		<ul style="list-style-type: none"> 業務マニュアル作成、各会議などで委員会と研修の実施 	☀️
(8) 研修受講、勉強会の開催 	ACP(アドバンス・ケア・プランニング)・看取りについて研修・勉強会を行う(年2回以上)	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年12月研修実施(基礎・実例応用) 	☀️/☁️
	認知症ケアに関する研修・勉強会を行う(年2回以上)	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年5月(基礎)、9月(実例応用)研修実施 	☀️
	普通救命講習・吸引吸痰研修	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年1月30日実施 	☀️
	理学療法士による研修	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年8月会議より毎月実施 	☀️
	感染症・予防研修(年2回以上、BCP研修を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年5月、6月、10月、6年3月実施 	☀️
(9) 情報発信		<ul style="list-style-type: none"> ホームページ等への情報公開(予防接種など) 	☁️

※) ADL: 食事・移乗・整容・トイレ動作・入浴・歩行・更衣・排せつなどの日常生活動作(Activities of Daily Living)のこと

総務係 栄養・調理部門

目標 : おいしく 楽しく Eat for health

【令和5年度事業計画に対する評価】 ☀️・🌸・☔️の3段階で評価

計画内容	評価の視点	評価	
(1)(管理)栄養士の雇用増(3名→4名) 	<ul style="list-style-type: none"> 管理栄養士1名増員(3月) 可能な限り当日中の食事内容等の変更 ユニット単位でのミールラウンド(R6.4月達成見込み) 算定できず(算定未定) 算定できず(R6.4月達成見込み) 	☀️/🌸	
(2)栄養マネジメントの強化 <ul style="list-style-type: none"> 低栄養のスクリーニング(ふるい分け) 食事観察と嗜好及び食習慣等調査 食事摂取状況、身体活動レベル、身体特性(身長・体重等)身体機能の変化に合わせたアセスメント、モニタリングの実施 配置医、歯科医、歯科衛生士との連携 多職種による会議、ミーティング LIFEへのデータ提出とフィードバックの活用 PDCAサイクルに沿ったサービスの質の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 12回実施 入居時・随時(各入居者1回以上) 12回実施 配置医師：随時 歯科衛生士：24回 歯科医師：1回 36回参加 12回 	☀️	
(3)安全安心でおいしい食事提供 	<ul style="list-style-type: none"> HACCPに基づく衛生管理 感染症、災害時等状況に合わせた食事提供と備蓄品の見直し 給食委託業者、調理スタッフとの連携 旬の食材を使用し、季節ごとの行事食を組んだ献立作成 	<ul style="list-style-type: none"> 各衛生帳票のチェック・管理：年12回 デスポ食器の新調・在庫管理、使用指示 非常災害用レトルト粥の在庫更新(12月) 給食委託業者との給食会議の議題改善検討、情報共有 給食委託業者との各行事食毎の献立検討：17回 	☀️
(4)研修受講 <ul style="list-style-type: none"> (管理)栄養士のスキルアップを図る 	<ul style="list-style-type: none"> 施設外研修：3回(集合型1回、オンライン2回) 137回 	☀️/🌸	
(5)情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> 食事に関するレクリエーション、季節のイベント、献立表のグリーンホームだよりへの公開 農林水産省推進「野菜を食べようプロジェクト」野菜サポーターとして、野菜の消費拡大に向けた取り組み紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ：10回 農林水産省ホームページ「野菜サポーター」の野菜消費拡大に関する取組」掲載：4回 	☀️

ショートステイ鈴鹿グリーンホーム

【事業概要】

➤短期入所生活介護（三重県指定 第2470300274号）

共生型短期入所（三重県指定 第2410301689号）

➤定員：10床 [1ユニット] ➤類型：併設型・ユニット型・全室個室

目標：『Road to 2040 Project II』

～サステナビリティ:法人の持続の可能性の追及～

～キーワードは『社会課題と楽ちん』～

【令和5年度事業計画に対する評価】 ☀️・🌸・☔️の3段階で評価

計画内容		評価の視点	評価
 <p>(1)優位性 (ストレス ングス) をさらに 高める</p>	(市販モデル)ICT、介護ロボット・機器を複数組み合わせ使用	・見守り支援機器Neos+Care(ネオケア)、眠りSCANと排せつ予測機器DFree(ディフリー)の組み合わせ活用 夜間の排せつリズムに沿った支援を概ね確立できた	☀️
	上記を組み合わせた活用	・基準である30床に対して夜勤職員を2名配置しているが、およそ1名分の労力での勤務が可能になった ・夜勤帯に帳票や記録作成、24時間シートの修正などの事務仕事を行うことができ、生産性向上の効果が得られた	☀️
	(パイロットモデル)新たな機器の使用	・AIカメラシステムVCare(ブイケア)の試験運用を開始、以降パイロットモデル的な運用実施	☀️
	新たな機器の模索	・多くの機器に触れることができた	☀️
	調査・実証等への積極的な協力	・厚生労働省 老人保健健康増進等事業「介護ロボット等による生産性向上の取組に関する効果測定事業」協力 ・排せつ予測機器DFreeと装着型移乗支援機器マッスルスーツを使用しているパッケージング事業に協力	☀️
ノウハウの蓄積と鈴鹿グリーンホームモデルの構築	・各種介護ロボットを使用するなかで一定のノウハウの蓄積はできたと感じている	☀️	
(2)外国人介護人材・高齢者等人材の雇用	・外国人介護人材：8名勤務（在留資格介護・特定技能・技能実習生） ・60歳以上の高齢者：3名勤務	☀️	
(3)情報発信	・ホームページ グリーンホームだよりにより職員が投稿 ・（課題）更に採用力を強化に注目したホームページづくりが必要	☀️	

計画内容	評価の視点	評価
(4)ステークホルダーを意識した運営	・71回実施（事業報告書 附属明細書「(2)ステークホルダー（潜在的ステークホルダーを含む）とのつながり②その他の取組等」をご参照ください）	
(5)ケアプランデータ携システム※の導入	・国保連へのアプローチを継続中	

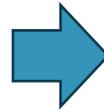
(6)その他

①ユニットケアチェックリスト（53項目）

・ 令和5年5月1日現在

・ 令和6年3月31日現在

	○	△	×
かえでユニット	51	2	0
	51 (±0)	2 (±0)	0 (±0)



※) ケアプランデータ連携システム：国民健康保険中央会では、居宅介護支援事業所と介護サービス事業所との間で毎月やりとりされるケアプランの一部情報（予定・実績）をデータ連携するシステムを構築しています

ケアプラン（提供票）をデータで送受信できるようになり、業務の負担軽減に繋がります

○データ連携で、作業時間の削減やコスト削減が期待できます／サービス提供票や居宅サービス計画書など、手書き・印刷し、FAXや郵送などでやりとりしていた書類をシステム上でデータの送受信ができるようになり、業務負担軽減が期待できます（国保中央会リーフレットVer.2）

ショートステイ鈴鹿グリーンホーム 翠風

【事業概要】

- 短期入所生活介護（三重県指定 第2470303658号）
- 定員：20床 [2ユニット]
- 類型：単独型・ユニット型・全室個室

目標：『新時代』の介護の実践

【令和5年度事業計画に対する評価】 ☀️・☁️・☔️の3段階で評価

計画内容	評価の視点	評価
(1) テクノロジー（ICT・ロボット・IoT化）のフル活用	<ul style="list-style-type: none"> ・既存機器のフル活用、組み合わせ活用 ・ICTを用いた情報連携（会議・ミーティング・情報伝達・情報連携）、ケアプランデータ連携システムの導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・全スタッフが見守り支援機器 Neos+Care(ネオケア)、安心ひつじ、HitomeQ(ヒトメク)の3つの機種の特徴を理解し、使い分けることができた ・HitomeQケアサポート会議：6回 ・HitomeQの毎月のフィードバックデータを活用し業務効率化、生産性の向上につながった ・ケアプランデータ連携システム：国保連との連絡継続中 
(2) 連携	<ul style="list-style-type: none"> ・NAS、LINE、eメールの活用で部署内の情報共有の強化 ・GooglemeetやZoom等のツールを活用した会議への参加 ・相談員をハブ機能に他部署、他機関との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・各ツールを活用し部署内、他部署との連携が図れた ・会議は現地、リモートのハイブリッド開催でユニット業務に入っている以外のスタッフは参加することができた 
(3) スタッフの質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・研修への参加、勉強会の開催、介護福祉士、介護支援専門員等の資格取得による自己スキルアップ ・有資格者によるサポートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月ユニット会議内で勉強会を開催 ・資格を取得することができた 介護支援専門員→1名合格 介護福祉士→2名合格 
(4) 人材確保	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、障害者、外国人人材の確保、業務の切り分け、ダイバーシティ化 ・専門職としてアイデンティティ（専門職としての価値の高い記事をグリーンホームだよりで発信し人材確保をねらう） 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者（介護スタッフ、生活援助）、障がい者（介護スタッフ）、外国人人材（介護スタッフ）の配置 ・フォロー体制の確立や業務の切り分けを実施 ・月平均16件のグリーンホームだよりの投稿できたが、課題としてアイデンティティの高い記事に関しては少なかった 

計画内容	評価の視点	評価
(5)稼働率の向上	パレードの法則※（上位20%）、新規開拓を意識した、営業、連携を行い稼働率向上へ	<ul style="list-style-type: none"> 年間稼働率：97.8% 新規利用者：86名 感染対策ゾーニング※による受入をストップした月は稼働率が低下した  
(6)ケアの質の向上	<ul style="list-style-type: none"> 個別性を意識した短期入所サービス計画書、アセスメント(課題分析)に基づいたより線密な24時間シートの作成 ご利用者の「意向」を第一に 	<ul style="list-style-type: none"> 個別性を意識した帳票類の作成は行えたが帳票類を作成できるスタッフが限定的に留まった 
(7)コスト意識	<ul style="list-style-type: none"> データに基づいた管理 スタッフの意識向上 調査・実証等への積極的な協力 	<ul style="list-style-type: none"> 排せつ用品のコスト：前年度から33.76%削減 三重電子株式会社様：見守り支援機器“アイススペック”の改良に向けや試用 
(8)感染対策	マニュアル、ゾーニングマップの更新	<ul style="list-style-type: none"> 感染対策ゾーニング開始後のオペレーションはマニュアルどおり実施できた 平時からの感染対策や初動に課題を残した 

(8)その他

①ユニットケアチェックリスト（53項目）

全項目達成

・ 令和5年5月1日現在

・ 令和6年3月31日現在

	○	△	×
るりユニット	5 1	2	0
こはくユニット	5 1	2	0
計	1 0 2	4	0



	○	△	×
るりユニット	5 3 (+ 2)	0 (▲ 2)	0 (± 0)
こはくユニット	5 3 (+ 2)	0 (▲ 2)	0 (± 0)
計	1 0 6 (+ 4)	0 (▲ 4)	0 (± 0)

※) パレードの法則：経済において、全体の数値の大部分は、全体を構成するうちの一部の要素が生み出しているとした。80：20の法則、ばらつきの法則とも呼ばれる（「Wikipedia」より）

※) ゾーニング：感染症対策として、汚染されている区域（汚染区域）と汚染されていない区域（清潔区域）とを区分けすること

デイサービスセンター鈴鹿グリーンホーム

【事業概要】

➤通所介護（三重県指定 第2470300332号）

第1号通所事業〔総合事業〕（鈴鹿亀山地区広域連合指定 第24A0300822号）

共生型生活介護（三重県指定 第2410301697号）

障がい者日中一時支援事業（鈴鹿市）

➤定員：70名（事業所規模：大規模型〔Ⅱ〕）

目標：誰もが“楽しく”、“生き生き”と

【令和5年度事業計画に対する評価】 ☀・☁・☔の3段階で評価

計画内容		評価の視点	評価
(1)質の評価	科学的介護情報システム(LIFE)の取組	関連加算算定状況	☀
	みえ福祉第三者評価の受審	現状を知り、改善に向けた取り組みを実施	☀
(2)機能訓練、介護予防プログラムの進化、深化	ICT機器のさらなる活用 	「モフトレ」と「GaitBEST」を組み合わせた、新たな転倒予防プログラムを推進	☀
		転倒→骨折→入院（利用中止）→退院→再転倒／利用離脱のリスクを低減する	☀/☁
		介護事業所で定期的に計測→転倒リスクが増加している方に早めに対策（機能訓練、付き添い、自宅での注意喚起等）→転倒を防ぐ	☀
(3)生産性の向上 	デジタル記録、テレワーク※、モバイルワーク※の拡張	介護ソフトのフル活用	☀/☁
		スタッフ全員が介護ソフトを使用	☀

- ※) テレワーク：「ICT（情報通信技術）を活用し、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方」
 ※) モバイルワーク：移動中（交通機関の車内など）や顧客先、カフェなどを就業場所とする働き方です
 営業など頻繁に外出する業務の場合、様々な場所で効率的に業務を行うことにより、生産性向上の効果が
 あります
 テレワークでできる業務が広がれば、わざわざオフィスに戻って仕事をする必要がなくなるので、無駄な移動を削減することができます
 また、身体的負担が軽減でき、ワーク・ライフ・バランス向上に効果があります
 ・営業職など、所属オフィス外での業務が多い職種にとって特に有用です
 ・移動時間を有効活用できる、顧客先で迅速に対応できるなどのメリットがあります
 （厚生労働省「働き方・休み方ポータルサイト」）

計画内容		評価の視点	評価
(3)生産性の向上	ケアプランデータ連携システムの導入	ケアプランデータ連携システムの導入	導入なし
	稼働率向上、共生型生活介護・障がい者日中一時支援の利用拡大	関係機関への働きかけ	
(4)感染症対策		対策実施状況	
(5)医療・介護福祉、外部の多種多様な機関との連携		連携の状況	
(6)2024年度介護報酬改定を見据えた体制整備		体制整備状況	
(7)研修受講		開催・受講状況	
(8)情報発信		<ul style="list-style-type: none"> PR活動、ホームページ発信：目標年間365本、ニュースレター配布：毎月及び臨時 日常を発信→イメージ（自身や家族がサービスを利用した際、自身が勤務した際、社会の介護のイメージの変化など）を伝える 	

【Topics】

内閣府「Digi田甲子園2023」応募



➤令和5年10月予選エントリー

➤残念ながら本選出場とはなりませんでしたが、今後もDXの取り組みを推進していきたいと思えます

鈴鹿グリーンホーム居宅介護支援事業所

(ケアマネジャー)

【事業概要】

➤居宅介護支援（鈴鹿亀山地区広域連合指定 第2470300258号）

目標：DX(デジタルトランスフォーメーション)の実践

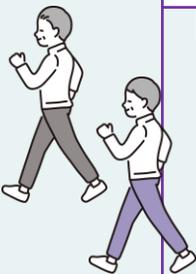
【令和5年度事業計画に対する評価】 ☀️・☁️・☔️の3段階で評価

計画内容	評価の視点	評価	
(1)公正中立なケアマネジメントの実行	特定事業所 [※] 運営基準の遵守	・特定事業所 [II] 算定 ・事業所自己評価実施 (3月)	☀️
(2)介護予防支援業務受託	・介護保険制度、介護報酬体系に沿ったサービスの提供 ・スピーディーな対応 ・組織、組織人としての行動	・各地域包括支援センターからの受託に応えた	☀️
(3)科学的介護情報システム (LIFE) の取組	LIFEの理解、フィードバックデータの活用	・年間を通してシステムにデータ提出を行った	☀️
(4)テレワーク(在宅勤務 [※] ・モバイルワーク)の拡張、新たなテクノロジー活用(生産性向上・業務効率化)	・テクノロジーを活用したケアマネジメントの実践(遠隔操作も含む) ・ケアプランデータ連携システムの活用(医療・介護・多職種連携) ・ワークライフバランス(仕事と家庭の両立) ・ノー残業デーの設定	・テレワークを実施することができた(より多くの端末があるとよい) ・国保連へのアプローチを継続中 	☀️ ☀️/☁️ ☀️ ☀️
(5)調査・実証等への積極的な協力、研修受講		・事業所が対象となる調査自体が少なかった	☁️
(6)情報発信	・ホームページ発信 ・ニュースレター配布 ・取組報告	・22本 ・0本 ・11月3日ホームページに動画公開	☀️/☁️
(7)非常災害時の支援対策		・消防訓練参加、リスクマネジメント研修等受講	☀️
(8)2024年度介護報酬改定への対応		・大きな変更がなかったため対応できた	☀️

※) 特定事業所：専門性の高い人材の確保や、より質の高いサービスを提供する事業所
 ※) 在宅勤務：所属するオフィスに出勤しないで自宅を就業場所とする勤務形態です
 オフィスに出勤したり、顧客訪問や会議参加などによって外出したりすることがなく、1日の業務をすべて自宅の執務環境の中で行います。通勤負担が軽減され、時間を有効に活用することができます
 ・従業員のワーク・ライフ・バランスを実現する上で効果的です
 ・育児・介護期の従業員がキャリアの継続を図ることができます
 また、障がいなどにより通勤が困難な従業員の就労継続にも効果的です
 ・静かな環境を整えやすいため、集中して業務を行うことができます

在介係（介護予防・介護支援、地域における公益的な取組）

【令和5年度事業計画に対する評価】 ☀️・🌧️・☔️の3段階で評価

計画内容		評価の視点	評価															
(1) 鈴鹿市受託事業 	① 鈴鹿市フレイル [※] 予防プログラム デイリーアクション事業 ・地域住民主体で実施するサロン活動等の場に伺い、体力測定、運動・マシントレーニングや音楽を用いたレクリエーションケアなどを行います（原則費用負担なし、鈴鹿市健康マイレージ併用可）	事業参加者（65歳以上）の人数が100人以上	☀️															
		事業参加者のうち、日常的にフレイル予防に取り組んだ方の割合が5割以上	☀️															
		事業参加者のうち、身体機能の維持、向上が図れた方の割合が2.5割以上	☀️															
	② 鈴鹿市介護予防普及啓発事業（WEB教室）	R5年6月より2回/月開催（全20回）	☀️															
【R5.4.1-R6.3.31の事業実績】																		
 <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施内容</th> <th>実施回数</th> <th>延べ参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>体力測定（デジタル測定）</td> <td>45回</td> <td>525名</td> </tr> <tr> <td>機能訓練ルームにおけるマシントレーニング等</td> <td>15回</td> <td>92名</td> </tr> <tr> <td>WEB教室</td> <td>48回</td> <td>408名</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>108回</td> <td>1,025名</td> </tr> </tbody> </table>				実施内容	実施回数	延べ参加者数	体力測定（デジタル測定）	45回	525名	機能訓練ルームにおけるマシントレーニング等	15回	92名	WEB教室	48回	408名	計	108回	1,025名
実施内容	実施回数	延べ参加者数																
体力測定（デジタル測定）	45回	525名																
機能訓練ルームにおけるマシントレーニング等	15回	92名																
WEB教室	48回	408名																
計	108回	1,025名																
③ 鈴鹿市高齢者見守り体制整備事業		・0件	事例なし															
④ 鈴鹿市高齢者緊急一時保護事業		・0件	事例なし															
(2) 地域における広域的な取組	① 社会福祉法人等による利用者負担軽減		・2名	☀️														
	② 協力・参画事業																	
	・鈴鹿市行方不明高齢者等のための安心ネットワーク活動（鈴鹿警察署、市社協等）		・継続実施	☀️														
	・安心・安全パトロール協力（鈴鹿市青少年対策推進本部）		・継続実施	☀️														
	・子どもを守る家協力（鈴鹿警察署・PTA・鈴鹿市）		・継続実施	☀️														
	・福祉避難所設置運営に関する協定（鈴鹿市）		・既締結	☀️														
	・災害時相互支援協定（鈴鹿管内介護施設）		・既締結	☀️														
	・感染症発生時における職員派遣覚書（三重県）		・既締結	☀️														
	・三重県DWAT（災害派遣福祉チーム）への登録（三重県）		・登録済	☀️														

※）フレイル：要介護状態に至る前段階として位置づけられています
 身体的脆弱性のみならず精神・心理的脆弱性や社会的脆弱性などの多面的な問題を抱えやすく、自立障害や死亡を含む健康障害を招きやすいハイリスクな状態を意味します
 （「フレイル診療ガイド2018年版」（日本老年医学会／国立長寿医療研究センター））

在介係（介護予防・介護支援、地域における公益的な取組）

【令和5年度事業計画に対する評価】

計画内容		評価の視点	評価
(2) 地域における広域的な取組	③法人独自事業・取組		
	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす等無料貸出 	実施状況 <ul style="list-style-type: none"> ・車いす : 3回、延べ 54日 ・ポータブルトイレ : 4回、延べ294日 ・シャワーチェア : 1回、延べ 35日 ・すべり止めマット : 1回 	☀
	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者・高齢者等就職困難者の雇用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者雇用 : 3.76%(R5.6. 1現在) ・高齢者雇用 : 17.93%(R6.3.31現在) 	☀
	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防・熱中症予防・特殊詐欺等の啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防啓発 : 9回 ・食中毒予防啓発 : 2回 ・熱中症予防啓発 : 2回 ・特殊詐欺防止啓発 : 2回  <p>鈴鹿警察署 生活安全課よりデイサービス利用者へ啓発 (令和6年1月16日)</p>	☀
	<ul style="list-style-type: none"> ・AEDの設置(A棟) 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続設置 	☀
	<ul style="list-style-type: none"> ・講師・スタッフ・委員等の派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師 : 20件 ・スタッフ : 2件 ・委員等 : 17件 ・災害支援福祉チーム(DWAT) : 1件 	☀
	<ul style="list-style-type: none"> ・制度改正等の情報提供など 	<ul style="list-style-type: none"> ・計2回 	☀
	<ul style="list-style-type: none"> ・その他 <p>「この先横断歩道注意!」の看板設置 (深伊沢地域づくり協議会、令和6年3月17日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・深伊沢地域づくり協議会 交通安全看板設置協力(敷地内) ・「地域ケア圏域会議」出席 (テーマ: 大規模災害) ・「石薬師ふれ愛フェスティバル」栄養相談・血管年齢測定担当 ・「福祉・介護の魅力発信事業」県内中学校、高等学校において講義(2回) ・「みえ福祉・介護フェア2023」参画 ・「福祉の職場バス見学inみえ」協力 	☀

グループホーム悠々

【事業概要】

- 認知症対応型共同生活介護・介護予防認知症対応型共同生活介護
(鈴鹿亀山地区広域連合指定 第2490300346号)
- 定 員：9床 [1ユニット]
- 居 室 等：ユニット型・全室個室
- 所 在 地：鈴鹿市伊船町2943番地の4



目 標：「とりあえず、色々やってみる！」

【令和5年度事業計画に対する評価】 ☀️・🌧️・☔️の3段階で評価

計画内容	評価の視点	評価
(1)地域との連携	運営推進会議※の開催等	☀️
(2)運営の質の安定化 	理念・方針の浸透	☀️/🌧️
	トライアンドエラー※の取組姿勢	☀️/🌧️
	ユニットケアの推進	☀️
	テクノロジー（ICT・介護ロボット・機器）実装・活用の検討	🌧️
	科学的介護情報システム（LIFE）の取組推進	🌧️
	研修受講	☀️
	調査や実証等への積極的な協力	☀️
	ネットワーク環境整備（インターネット・セキュリティ・データ連携（NAS・メール））の状況	🌧️
	介護ロボットの導入・活用状況	🌧️
	フィードバック活用状況	🌧️

※) 運営推進会議：利用者、市町村職員、地域住民の代表者等に対し、提供しているサービス内容等を明らかにすることにより、地域に開かれたサービスとすることで、サービスの質の確保を図ることを目的として事業所が自ら設置する会議

※) トライ(アル)アンド エラー：新しい物事を、いろいろ試して失敗しつつ完成に近づけてゆくこと(Wikipedia)

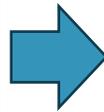
計画内容		評価の視点	評価
(3)感染症予防の徹底・発生時の対応、リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 法定会議・研修・訓練の実施状況など ➢ 発生（があった場合の）状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法定会議・研修・訓練の実施状況など ・ 発生（があった場合の）対応 	
(4)2024年度介護報酬改定を見据えた体制整備	次期介護報酬算定に向けたシフト状況（勉強会の実施・体制変更など）	・ 次期介護報酬算定に向けたシフト状況（勉強会の実施・体制変更など）	
(5)積極的な情報発信	ホームページ等への情報公開数など	・ ホームページ等への情報公開数など	

(6)その他

①ユニットケアチェックリスト（53項目）

・ 令和5年5月1日現在

○	△	×
31	16	5



・ 令和6年3月31日現在

○	△	×
38 (+7)	12 (▲4)	2 (▲3)

デイサービス悠々

【事業概要】

- 地域密着型通所介護・第1号通所事業 [総合事業]
(鈴鹿亀山地区広域連合指定 第2490300353号 / 24A0301770号)
- 定 員：18名
- 所 在 地：鈴鹿市伊船町2229番地の9

目 標：誰もが“楽しく”、“生き生き”と

【令和5年度事業計画に対する評価】

	計画内容	評価の視点	評価	
	(1)地域との連携	運営推進会議の開催等	➤概ね6月に1回以上開催	
	(2)運営の質の安定化	理念・方針の浸透	➤職員認識率100%を目指す ➤家族等への案内文書に記載 ➤名刺・パンフレット・HP等に掲載	
		トライアンドエラーの取組姿勢	➤各計画に対する職員の取組姿勢	
	テクノロジー（ICT・介護ロボット・機器）実装・活用の検討		➤ネットワーク環境整備（インターネット・セキュリティ・データ連携（NAS・メール））の状況 ➤介護ソフトの導入・活用状況など	
		科学的介護情報システム（LIFE）の取組推進	➤LIFE関連加算の算定状況	
		研修受講	➤項目、回数・受講者数など	
(3)感染症予防の徹底・発生時の対応、リスクマネジメント	➤法定会議・研修・訓練の実施状況など ➤発生（があった場合の）状況		➤法定会議・研修・訓練の実施状況など ➤発生（があった場合の）状況	
		(4)2024年度介護報酬改定を見据えた体制整備	➤次期介護報酬算定に向けたシフト状況（勉強会の実施・体制変更など）	
(5)積極的な情報発信	➤ホームページ等への情報公開数など	➤ホームページ等への情報公開数など		

(2)ステークホルダー - (潜在的ステークホルダーを含む) とのつながり

①厚生労働省 令和5年度老人保健健康増進等事業等 (全145事業中、23の事業に協力)

日程	事業名	実施(委託)機関
7月 ～9月	(1)「介護ロボット等による生産性向上の取組に関する効果測定事業」協力 001252896.pdf (mhlw.go.jp)	株式会社三菱総合研究所様
	(2)「介護サービスにおける専門職のテレワークの取扱いについて」における実証調査」協力 r05mhlw_kaigo2023_0601.pdf (mizuho-rt.co.jp)	みずほリサーチ&テクノロ ジーズ株式会社様
7月	(3)「個室ユニット型施設の整備・運営状況に関する調査研究事業(介護報酬の改定効果検証及び調査研究)調査」回答	株式会社日本総合研究所様
	(4)「通所系サービスにおける新型コロナウイルス感染症の影響に関する調査研究事業調査」回答 https://www.nttdata-strategy.com/services/lifevalue/docs/r05_40jigyohokokusho.pdf	株式会社エヌ・ティ・ティ・ データ経営研究所様
8月	(5)「通所事業所等における口腔・栄養関連サービスに関する調査研究事業 口腔・栄養スクリーニング普及啓発に向けた郵送調査」回答 r5-rouken-houkoku28.pdf (j-ncm.com)	一般社団法人日本健康・栄 養システム学会
	(6)「通所系サービスにおける入浴介助に関するアンケート調査」回答 r03mhlw_kaigo2021_0301.pdf (mizuho-rt.co.jp)	みずほリサーチ&テクノロ ジーズ株式会社様
	(7)「介護現場での自立支援促進に係る取組に関する調査」回答 介護現場での自立支援促進に係る調査研究事業 (pwc.com)	PwCコンサルティング合同 事業報告書 会社様
9月	(8)「地域包括ケアシステムにおけるケアマネジメントのあり方に関する調査研究事業 介護報酬改定の影響等に関するアンケート」回答 地域包括ケアシステムにおけるケアマネジメントのあり方に関する調査研究事業 報告書 (murc.jp)	三菱UFJリサーチ&コンサル ティング株式会社様
	(9)「通所介護・地域密着型通所介護・認知症対応型通所介護における社会参加活動の実施状況に関するアンケート調査」回答 通所介護・地域密着型通所介護・認知症対応型通所介護における社会参加活動の実施状況に関する調査研究事業 報告書 (jri.co.jp)	株式会社日本総合研究所様
	(10)「社会福祉士学校養成所の既卒者に対する国家資格取得支援の在り方に関する調査研究事業」調査回答 20240331_syakai_suishin_kisotu_houkoku01.pdf (jaswe.jp)	一般社団法人日本ソーシャ ルワーク教育学校連様(株 式会社日本総合研究所様)
	(11)「介護施設・事業所等における身体拘束廃止・防止の取組推進に向けた調査研究事業」回答	株式会社日本総合研究所様 001248429.pdf (mhlw.go.jp)
10月	(12)「介護現場のニーズをふまえたテクノロジー開発支援に関する調査研究事業」ヒアリング協力 介護現場のニーズをふまえたテクノロジー開発支援に関する調査研究事業 報告書 (jri.co.jp)	株式会社 日本総合研究所 様(社会福祉法人善光会 サ ンタフェ総合研究室様)

日程	事業名	実施(委託)機関
10月	(13)「科学的介護情報システム（LIFE）におけるフィードバックの活用」に資する調査研究事業」協力 科学的介護情報システム（LIFE）におけるフィードバックの活用」に資する調査研究事業 報告書 (mri.co.jp)	株式会社三菱総合研究所様
	(14)「認知症評価検証調査」回答 r05mhlw_kaigo2023_0201.pdf (mizuho-rt.co.jp)	みずほリサーチ&テクノロジー株式会社様
	(15)「BPSDの予防・軽減を目的とした認知症ケアモデルの普及促進に関する調査研究」協力 ※BPSD:認知症の行動・心理症状 <975C966892B28DB8955B2E706466> (dcnet.gr.jp)	社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター様
12月	(16)「介護福祉士のキャリアアップにおける職場環境等の影響に関する調査研究事業」回答	日本能率協会総合研究所様
1月	(17)「特別養護老人ホームの配置医師と協力医療機関の連携体制や役割分担に関する調査研究事業」モデル施設ヒアリング llgr5_49_report.pdf (jmar.co.jp)	日本能率協会総合研究所様
	(18)「科学的介護に向けた質の向上支援等事業」・「科学的介護情報システム（LIFE）におけるフィードバックの活用」に資する調査研究事業」に関する視察・ヒアリング 科学的介護情報システム（LIFE）フィードバック活用の手引き (mri.co.jp) https://www.mhlw.go.jp/content/12301000/001255064.pdf	厚生労働省 株式会社三菱総合研究所様
	(19)「介護施設等における生産性向上に関する委員会の実態調査研究事業」アンケート調査協力 「介護施設等における生産性向上に関する委員会の実態調査研究事業」報告書 (mri.co.jp)	株式会社三菱総合研究所様
	(20)「介護保険施設等の社会福祉士の活用状況と有効性に関する調査」回答協力 r5roukenhoukoku.pdf (jacsw.or.jp)	公益社団法人 日本社会福祉会様
2月	(21)AMED 「ロボット介護機器開発等推進事業（環境整備）普及啓発事業」ヒアリング協力	PWCコンサルティング 合同会社様 パソル・メス&テクノロジー株式会社様
3月	(22)「介護情報の安全管理に関する調査研究事業」ヒアリング調査 介護情報の安全管理に関する調査研究事業報告書 (mri.co.jp)	エム・アール・アイリサーチアソシエイツ株式会社様

②その他の取組等

時期	主催等	内容
4月	(1)医療法人富田浜病院様、社会福祉法人富田浜福祉会様	デイサービスにおける機能訓練、フレイル予防に関する見学（Moffバンド・GaitBEST・HURスマートタッチなど）
	(2)社会医療法人社団陽正会様、社会福祉法人新市福祉会様	デイサービスにおける機能訓練、フレイル予防、ICT、介護ロボット、LIFEの運用状況等の見学
	(3)厚生労働省ホームページ	『科学的介護情報システム（LIFE）について』▷「3 LIFEの導入、入力と評価方法、利活用のマニュアル」▷『令和4年度科学的介護に向けた質の向上支援等事業研修会において、当会の取組動画が公開』
	(4)厚生労働省ホームページ	『第216回社会保障審議会介護給付費分科会』資料▷「介護ロボット等による生産性向上の取組に関する効果測定事業 報告書」掲載

時期	主催等	内容
4月	(5)社会福祉法人檸檬様	見学 (ICT導入・活用)
	(6)&ConsultingFirm様	テクノロジー等に関する意見交換
	(7)株式会社Moff様	モフトレ・モフトレレポートの活用状況ヒアリング
	(8)株式会社ジェイテクト様	“J-PAS fleairy” (ジェイパスフレアリー) リーフレットに掲載
	(9)社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会様	“J-PAS fleairy” (ジェイパスフレアリー) の体験
5月	(10)三重電子株式会社様 三重県産業支援センター様	見守り支援機器“アイスペック”に関する意見交換
	(11)Voxela.inc様 (米国)	AIカメラシステム“VCare”(ブイケア)の運用場面について
	(12)三重県社会福祉協議会様	「福祉みえ (2023年6月号) コロナ禍を乗り越えたその先に」掲載 (2020年3月号のアンサー企画)
6月	(13)社会福祉法人伊勢湾福祉会様、社会福祉法人慈童会様	見守り支援機器(マット系センサー)“aams(アムス)介護”見学
	(14)参議院議員 山本佐知子様	ドイツ ベルリン工科大学 社会学調査 視察
	(15)N&Fテクノサービス株式会社様	『第二回Webセミナー 「人間と介護ロボットの共存」～徹底討論ロボットは敵か味方か～』登壇
	(16)三重電子株式会社様	見守り支援機器+体重測定装置 改良“アイスペック”設置実証
	(17)株式会社バイオシルバー様	“aams.介護”試用
	(18)株式会社ブルーオーシャンシステムズ様	介護記録ソフト“BlueOceanNOTE II”に関する意見交換、新機能デモ
	(19)社会福祉法人明健福祉会様	社会福祉法人運営に係る意見交換、テクノロジー見学
7月	(20)社会福祉法人けやき福祉会様	介護ロボット(見守り支援機器等)見学
	(21)株式会社ブルーオーシャンシステムズ様	社員研修(於：鈴鹿グリーンホーム)
	(22)高齢者住宅新聞社様	「第15回 介護経営サミット(オンラインセミナー)【21】 AIを使おう～ケアサービスにおける具体的な活用事例～」登壇
	(23)三重県医療保健部長寿介護課様	介護人材確保に関する実態調査回答
	(24)龍骨王様 (台湾)、HUMANLINK様	歩行測定機器“Kinect”・アプリ“GaitBEST”“Majesty”に関する意見交換
	(25)株式会社三菱総合研究所様	「科学的介護情報システム(LIFE)フィードバック活用の手引き(令和4年度 厚生労働省 老人保健健康増進等事業)」ワーキングチーム構成員 参画
	(26)中部電力株式会社様	換気状態の見える化サービス“Airoco”に関する取材 変化を厭わず、テクノロジーで変える感染対策 鈴鹿福祉会 事業創造本部 - Business Development Division (chuden.co.jp)
8月	(27)Voxela.inc様 (米国)	AI見守りカメラシステム“VCare”に関する意見交換
	(28)三重電子株式会社様	見守り支援機器+体重測定装置 改良“アイスペック”に関する意見交換
	(29)龍骨王様 (台湾)、HUMANLINK様	歩行測定機器“Kinect”・アプリ“GaitBEST”“Majesty”に関する意見交換
	(30)軽井沢エフエム放送株式会社様	軽井沢ラジオ大学インタビュー取材、放送 (9月) KARUIZAWA RADIO UNIVERSITY ONLINE

時期	主催等	内容
9月	(31)社会福祉法人 富田浜福祉会様	見学・ICT等を活用した機能訓練の実際場面
	(32)公益社団法人 日本社会福祉士会様	生活相談員を対象としたフォーカス・グループ・インタビュー協力
	(33)名古屋大学情報学部人間・社会情報学科学生・担当教員様	見学・インタビュー (ICT・介護ロボット)
	(34)公益財団法人テクノエイド協会	「介護ロボット等活用ミーティング」発表
	(35)徳島県老人福祉施設協議会様	科学的介護情報システム(LIFE)の推進に向けた研修会 講師
	(36)株式会社ジェイテクト様 https://youtu.be/rtVBCOSP6d8?si=Z6EK2EKWjSray3ba	「介護作業専用アシストスーツ“J-PAS fleairy”(ジェパスフレアリ-)【イメージ動画】あなたの笑顔に逢いたくて」動画公開
10月	(37)国際医療福祉大学様	社会福祉経営管理論 「ICT・科学的介護情報システム(LIFE)・栄養」講義
	(38)株式会社YAMADA様	歩行筋サポートギア“e-foot”(イー・フット)に関する意見交換
	(39)国際医療福祉大学様	社会福祉経営管理論 「ICTを活用したフレイル予防事業」講義
	(40)社会福祉法人 タブリュエッチジェイ様	見学 (ICT・介護ロボット・フレイル予防プログラム)
	(41)株式会社HUMANLINK様 龍骨王様	龍骨王“GaitBEST”・“Majesty”の活用に関する意見交換
	(42)社会福祉法人 三重県社会福祉協議会様	「福祉施設見学ツアー」受け入れ
	(43)株式会社Moff様	Moffバンドの活用に関する意見交換
11月	(44)高齢者住宅新聞社様	高齢者住宅新聞掲載「ウェアラブル機器で体力測定」
	(45)奈良県老人福祉施設協議会様	第35回奈良県老人福祉施設職員研究会議 助言者
	(46)三重県社会福祉協議会様(三重県委託事業)様	みえ介護・福祉フェア2023「介護ロボット展示・体験担当(6年連続)」
	(47)第27回石薬師地区ふれ愛フェスティバル実行委員会様	第27回石薬師ふれ愛フェスティバル 栄養相談・血管年齢測定ブース担当
	(48)三重県社会福祉協議会様	業務継続計画(BCP)策定研修において事例報告
	(49)群馬県老人福祉施設協議会様	LIFE研修会 講師
12月	(50)三重県介護福祉士養成施設協会様 シリーズ「介護の魅力」第6回～ユマニテック医療福祉大学校～ 三宅舞のリポーターブログ(fmmie.jp)	「私たちの選んだ介護の道が、たくさんの人を幸せにする」レディオキューブFM三重様”ゲツモク!”出演
	(51)三重県介護福祉士養成施設協議会様	『「介護」をテーマに座談会』 参画
	(52)三重県社会福祉協議会 三重県福祉人材センター様	紀北町立潮南中学校「福祉・介護の魅力発信事業」出張講座 参画
	(53)専門学校ユマニテック医療福祉大学校様	「オープンキャンパス (介護ロボットの体験)」参画
	(54)&ConsultingFirm様	介護事業所オンライン交流会参加
	(55)広島県老人福祉施設協議会様	LIFE研修会 講師
	(56)三重県 雇用経済部様	「みえDX推進ラボ 介護福祉WG」意見交換会出席
	(57)株式会社BI Brid様、フルノシテムズ株式会社	ICT・DXに関する意見交換、視察
	(58)公益社団法人 鈴鹿法人会 女性部会様	車いす・寄せ植え ご寄贈

時期	主催等	内容
1月	(59)鈴鹿市健康福祉部様	「フレイル予防事業・テクノロジー活用状況」視察 みんなの介護 「ビジョナリーの声を聴け 超高齢化社会を心豊かな未来に」 動画・コンテンツ公開 https://www.minnanokaigo.com/news/visionary/no99/
	(60)株式会社クーリエ様 株式会社ジェイテクト様	
	(61)&ConsultingFirm、 ALSOK介護株式会社様	
1-2月	(62)ユマニテク医療福祉大学 校様	講義「介護・ICT」（1年生：計5回／2年生：計2回）
2月	(63)金沢医科大学大学院様	「デイサービスの勤務を担う専従看護職と専従以外の役割の違いに関する研究」に関する調査回答
	(64)社会福祉法人三重県社会 福祉協議会 三重県福祉人 材センター様	三重県立明野高等学校「福祉・介護の魅力発信事業」出張講座
	(65)三重県 雇用経済部様	「みえDX推進ラボ 介護福祉WG」意見交換会出席
	(66)コニカミノルタQOLソ リューションズ様	生産性向上に関する意見交換
	(67)鈴鹿医療科学大学様	管理栄養士臨地実習受入
3月	(68)国際医療福祉大学様	社会福祉運営管理論 勉強会 参加
	(69)社会福祉施設職員様	ICT・介護ロボット見学
	(70)株式会社コミュニケーション 科学研究所様	「CI（コーポレートアイデンティティ）指標調査」 協力
	(71)Humetics様（台湾）	マット系センサー“i-Cue SmartMat”に関する意見交換、試用依頼

②講師、委員等派遣（スポットを除く）

主催等	内容
三重県	(1)三重県介護保険審査会 委員 (2)三重県介護現場革新会議 委員
三重労働局	(3)福祉人材確保推進協議会 委員
公益社団法人全国老人 福祉施設協議会	(4)三重県代議員 (5)介護保険事業等経営委員会 特別養護老人ホーム部会 部長 (6)離島・過疎地域における小規模特養の事業継続モデル研究事業 委員 (7)老施協総研LIFE研修会 講師
三重県老人福祉施設協 会	(8)副会長 (9)介護福祉人材確保対策WT 委員 (10)次世代委員会 委員
社会福祉法人三重県社 会福祉協議会	(11)三重県福祉サービス運営適正化委員会 委員 (12)三重県福祉人材センター運営委員会 委員長 (13)社会福祉施設職員研修委員会 委員長
一般財団法人三重県社 会福祉施設職員共済会	(14)理事
国際医療福祉大学	(15)社会福祉経営管理論 講師メンバー
株式会社三菱総合研究 所	(16)科学的介護情報システム検討委員会 委員 (17)LIFEの活用状況の把握およびADL維持等加算の拡充の影響に関する調査研究事業 委員就任
みずほリサーチ&テク ノロジーズ株式会社	(18)介護サービスにおける専門職のテレワークの取扱いについて 委員
学校法人みえ大橋学園	(19)専門学校ユマニテク医療福祉大学校 介護福祉学科 非常勤講師



研修実施報告

【取り組み】

2019年3月に厚生労働省より公表された『より良い職場・サービスのために今日からできること(業務改善の手引き)』には、「近い将来、高齢化社会のピークを迎え、介護ニーズの急増と多様化に対応する必要がある一方、人口減少社会の到来で生産年齢の介護人材の確保が困難となるこのような状況においても、介護の質を確保し、向上させていくことが、介護現場が直面することになる課題である」とされており、この課題に対応するため、



- (1) 介護職員の処遇改善
- (2) 多様な人材の確保、育成
- (3) 離職防止、定着促進
- (4) 介護職の魅力向上 など様々な方向から対策すること

が必要であるとされています

介護サービスにおける業務改善の捉え方については、上位目的を「介護サービスの質の向上」とし、業務改善に取り組む意義は、人材育成とチームケアの質の向上、そして情報共有の効率化であると考えます。

この3つの意義に資する取組を通して、楽しい職場、働きやすい職場を実現し、そこで働く人のモチベーションを向上することで、人材の定着・確保へつなげることを目指します」と説明されています

また、2018年12月25日に発表された株式会社リクルートキャリアが行なった「HELPMAN JAPAN 介護サービス業で働く人の満足度調査」においては、

- ・仕事に満足している介護従事者は、79.7%が勤続意向ありと回答・ロボットやITの導入が進んでいる施設で働いていると、仕事に対する満足度は高くなる
- ・新人研修など「技術・スキル研修」と、モチベーション研修など「技術・スキル以外の研修」の両方の受講者の勤続意向は、両方未受講者より、27.2ポイント高いとの調査結果が示されました

令和5年度(2023年度)においても、これまでと同様に次の3つのポイントを踏まえ

- ポイント①:「技術・スキル研修」と「技術・スキル以外の研修」を上手く組み合わせて受講する
- ポイント②:ロボットや ICT、(介護)機器などのテクノロジーに関する研修会を積極的に受講する
- ポイント③:階層別に受講が必要であると考えられる研修、或いは職員個々に受講を希望する研修について、人事考課シートの目標管理欄の設定状況等を踏まえて、研修派遣者を検討する



【研修の目的】

ご入居者、ご利用者の望む暮らしの実現と自立支援に向けて、職員一人ひとりが介護力、福祉力の向上を図るとともに、令和の時代の介護、福祉の実践者、普及者として、創造(Creativity)の高い介護現場の実現を目指すことを目的とします

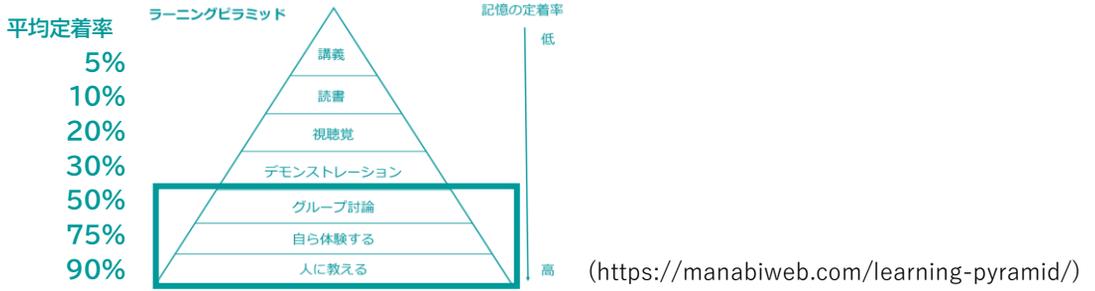
【育成方針】

「まなぶ風土」の醸成と「互いに努力を認め合える文化」の構築により、「働きがいのある魅力的な職場」形成と「豊かな人材」の育成を図ります

【令和5年度(2023年度)育成方針】

ICT・ロボット・機器などのテクノロジーや外国人介護人材等の人材を活用することができる人材を求めていることから、業務内で自然とスキルが習得できるように必要な環境や資源、システム等の整備を並行して進めながら、人材の育成を図ります

【受動的な学び”から、“積極的な学び(実践、普及)”への展開方法】



【計画内容】

・新任職員研修

受講時期	研修内容等	延べ受講者数
採用時、採用後	採用時のしおり研修	26名
	基本介護技術OJT研修	



・事業所「内」研修

受講時期	研修内容等	受講部署	延べ受講者数
4月	(1)送迎車両の使用方法について	特養係	3名
	(2)感染症対策BCP	デイサービスセンター	17名
4-7月	(3)LIFEについて	特養係	56名
5月	(4)人権擁護、虐待防止、身体拘束適正化	デイサービスセンター	17名
	(5)見守り支援機器“aams(アムス)介護”勉強会・試用	特養係	11名
	(6)感染症について	特養係	16名
	(7)ビジネスマナーについて	特養係	12名
6月	(8)基本介護技術OJTチェックリスト※研修(～7月)	全部署	129名
	(9)福祉車両について	特養係	3名
	(10)排せつ予測機器“DFree”について	特養係	10名
	(11)見守り支援機器“aams.介護”勉強会	グループホーム	3名
6-7月	(12)権利擁護、身体拘束適正化研修	特養係 医務係	28名 9名
	(13)機械式個浴導入前講習・安全対策研修	デイサービスセンター	17名
	(14)見守り支援ロボット“aams(アムス)介護”試用	グループホーム	10名
7月	(15)事業継続計画(BCP)について	特養係	17名
8月	(16)個人情報保護法について	デイサービス悠々	8名
	(17)労働安全衛生について	特養係	12名
	(18)ビジネスマナーについて	特養係	13名
	(19)腰痛予防について	特養係	13名

※) 基本介護技術OJTチェックリスト研修：業務手順、安全対策、身体拘束適正化、人権擁護、感染症対策、事業継続などを含んだチェックリスト

受講時期	研修内容等	受講部署	延べ受講者数
9月	(20)感染症対策 事業継続計画（BCP）	デイサービスセンター	17名
	(21)技能実習生についての知識	特養係	13名
	(22)消防訓練	総務係 特養係 医務係 デ・イビ・センター 居宅介護支援	3名 7名 1名 3名 1名
	(23)消防訓練	グループホーム	4名
	(24)消防訓練	デ・イビ・ス悠々	7名
	10月	(25)“マッスルスーツ”装着研修	総務係 特養係
(26)事業継続計画（BCP）について		特養係	15名
10月 ー12月	(27)基本介護技術OJT研修	グループホーム	11名
11月	(28)感染症及び食中毒の予防及びまん延防止のための対策委員会のシミュレーション	グループホーム	11名
	(29)感染症について	特養係	16名
	(30)ビジネスマナーについて	特養係	16名
12月	(31)基本介護技術OJTチェックリスト研修（～1月）	全部署	130名
	(32)身体拘束適正化・権利擁護勉強会	特養係	13名
	(33)「みんなでつくろう事業計画」作成検討会	幹部会議出席役員・職員	12名
1月	(34)“VCare”導入研修	特養係	15名
	(35)「みんなでつくろう事業計画」作成検討会	幹部会議出席役員・職員	12名
	(36)事業継続計画（BCP）について	特養係	14名
2月	(37)「みんなでつくろう事業計画」作成検討会	幹部会議出席役員・職員	12名
3月	(38)「みんなでつくろう事業計画」作成検討会	幹部会議出席役員・職員	11名
	(39)協定締結医療機関の感染症対策研修会	グループホーム 特養係	3名 2名
	(40)ヒヤリハット研修	デ・イビ・センター	8名
	(41)排せつ介助に関する勉強会	特養係	3名
	(42)消防訓練	グループホーム	4名
	(43)消防訓練	デ・イビ・ス悠々	5名
	(44)事業所評価研修	各部署	11名

・事業所「外」研修(オンラインによる研修を含む)

受講時期	研修内容等	受講部署	延べ受講者数
4月	(1) (認知症の) 行動・心理症状 (問題行動) はなぜ起こるのか	デ イビ スセンター	3名
	(2) ACPでのバイタルリンク活用について・タグ操作説明会	特養係	1名
5月	(3) 社会福祉法人運営研修会 	総務係 居宅介護支援 デ イビ スセンター	1名 5名 1名
	(4) 全国老協 次世代委員会代表者会議内研修	総務係	1名
	(5) 高齢者の病気の特徴	デ イビ スセンター	2名
	(6) 虐待防止研修	居宅介護支援	5名
6月	(7) 対人援助職に効く、心の免疫力を高めるワークショップ ～アンガーマネジメント・問題解決技法・マインドフルネスを身につけよう～	デ イビ スセンター	1名
	(8) 異常の早期発見のための観察の視点	デ イビ スセンター	2名
	(9) 安全運転講習	デ イビ スセンター	1名
	(10) 身体拘束適正化研修 	デ イビ ス悠々	8名
	(11) 三重県DWAT登録員研修	特養係	1名
	(12) 身体拘束適正化研修	特養係	27名
7月	(13) 認知症介護基礎研修	特養係 デ イビ スセンター	7名
	(14) 人権擁護、虐待防止研修	グループホーム	10名
	(15) リスクマネジメント・人権擁護・虐待防止・身体拘束の適正化	デ イビ スセンター	18名
	(16) リスクマネジメント研修	居宅介護支援	5名
	(17) 令和5年度経営戦略セミナー	総務係 デ イビ スセンター	1名 1名
	(18) 異常の早期発見のための観察視点	デ イビ スセンター	2名
	(19) 人権擁護、虐待防止研修	デ イビ ス悠々	8名
	(20) 認知症研修 (幻聴・幻覚) 	グループホーム デ イビ ス悠々	10名 8名
	(21) 認知症ケアの専門性を理解する	デ イビ スセンター	1名
	(22) 指定居宅介護支援事業者等集団指導	居宅介護支援	1名
(23) 指定地域密着型サービス事業者集団指導	デ イビ ス悠々	1名	

受講時期	研修内容等	受講部署	延べ受講者数
8月	(24)個人情報（個人の尊厳・プライバシー）について	グループホーム	10名
	(25)認知症研修	グループホーム	10名
	(26)みえDXセンターセミナー	総務係	1名
	(27)認知症の3分類	デｲｲｰﾋﾞｾﾝﾀｰ	3名
	(28)災害時の対応に関する勉強会	デｲｲｰﾋﾞｾﾝﾀｰ	8名
	(29)有意義な会議・ミーティングの運営方法	総務係	1名
	(30)生産性向上の取り組みに関する介護事業所向け ビギナーセミナー	総務係	1名
	(31)ICT導入・普及啓発研修会	総務係 特養係 デｲｲｰﾋﾞｾﾝﾀｰ	1名 1名 1名
9月	(32)高齢者虐待防止研修	居宅介護支援	5名
	(33)権利擁護に関する研修	総務係	1名
	(34)権利擁護～利用者の真の主訴を考える～	デｲｲｰﾋﾞｾﾝﾀｰ	2名
	(35)事業継続計画（BCP）研修	デｲｲｰﾋﾞｾﾝﾀｰ	4名
	(36)認知症の基礎知識	デｲｲｰﾋﾞｾﾝﾀｰ	7名
	(37)みえライフイノベーションシンポジウム	総務係 特養係	1名 1名
	(38)国際医療福祉大学 社会福祉運営管理論聴講	総務係	1名
10月	(39)感染対策研修会	デｲｲｰﾋﾞｾﾝﾀｰ	1名
	(40)全国老協トップセミナー	法人本部 総務係	1名 1名
	(41)東海北陸ブロック老人福祉設研究大会（愛知・名古屋大会）	総務係 特養係 デｲｲｰﾋﾞｾﾝﾀｰ	1名 1名 2名
	(42)認知症介護実践者研修	デｲｲｰﾋﾞｾﾝﾀｰ	1名
	(43)国際医療福祉大学 社会福祉運営管理論聴講(2回)	総務係	1名
	(44)アドバンス・ケア・プランニング（ACP）研修会	総務係 特養係	1名 1名
	(45)ハラスメント防止に関する研修	デｲｲｰﾋﾞｾﾝﾀｰ グループホーム	7名 11名
	(46)ATCエイジレスセンター視察	法人本部	1名
	(47)動き出しは本人から～当たり前のことを当たり前 に実践するための、考え方から実技まで～	総務係	1名

受講時期	研修内容等	受講部署	延べ受講者数
11月	(48)感染症に関する研修	デイサービス悠々 グループホーム	7名 11名
	(49)生活リハビリ研修	総務係	1名
	(50)三重県災害情報システム災害想定訓練	総務係	1名
	(51)e-footオンライン説明会	総務係 デイサービスセンター	1名 4名
	(52)メンタルヘルス対策セミナー	総務係	1名
	(53)感染症及び食中毒の予防及びまん延防止のためのシミュレーション	グループホーム	11名
	(54)業務継続計画（BCP）策定研修（高齢分野）受講と登壇	総務係	1名
	(55)国際医療福祉大学 社会福祉運営管理論聴講	総務係	1名
	(56)人材確保・イメージアップに関する研修会	総務係 特養係	1名 1名
	(57)第2回全国老人福祉施設大会・研究会議(JSフェスティバルin岐阜)	総務係 特養係 デイサービスセンター	1名 1名 2名
(58)高齢者の転倒防止	デイサービスセンター	1名	
12月	(59)事業継続計画（BCP）に関する研修会	総務係	1名
	(60)認知症の特徴と他職種連携の必要性、高齢者の転倒予防	デイサービスセンター	1名
	(61)介護事業所オンライン交流会	総務係 特養係	1名 1名
	(62)国際医療福祉大学 社会福祉運営管理論聴講(2回)	総務係	1名
	(63)みえDXセンターセミナー	総務係	1名
	(64)みえDX推進ラボ 介護福祉関係事業者意見交換会	総務係 特養係	1名 1名
	(65)三十三銀行顧客懇談会（講演会）	法人本部	1名
	(66)人権擁護、虐待防止、身体拘束の適正化	デイサービスセンター	18名
1月	(67)高齢者虐待防止研修	デイサービス悠々	7名
	(68)人権擁護研修、虐待防止研修	グループホーム	12名
	(69)認知症研修	グループホーム	12名
	(70)福祉避難所開設・運営訓練	特養係	1名
	(71)特殊詐欺・身近な犯罪の防止に関する講和	デイサービスセンター	8名 (ご利用者と ともに聴講)
	(72)科学的介護情報システム（LIFE）研修会	総務係 特養係	1名 1名
	(73)普通救急救命講習会・喀痰吸引等研修会	全部署	17名

受講時期	研修内容等	受講部署	延べ受講者数
2月	(74)精神疾患高齢者対応研修会	総務係	1名
	(75)介護人材定着研修（管理者向け）	デｲﾝﾍﾞﾝｽﾞｾﾝﾀｰ	1名
	(76)認知症ケア研修	グループホーム	12名
	(77)事故・災害に関する研修	グループホーム	12名
	(78)認知症高齢者への対応研修	デｲﾝﾍﾞﾝｽﾞ悠々	6名
	(79)みえDS推進ラボ介護福祉関係事業者意見交換会	総務係 特養係	1名 1名
	(80)認知症対応型サービス事業開設者研修	総務係	1名
	(81)次世代ワールドカフェ	総務係 特養係	1名 1名
	(82)災害時福祉支援リーダー養成講座	特養係	1名
	3月	(83)腰痛予防研修	全部署
(84)経営戦略セミナー		法人本部 総務係	1名 1名
(85)地域福祉講演会		デｲﾝﾍﾞﾝｽﾞｾﾝﾀｰ	1名
(86)デイサービス経営視点のポイント解説セミナー		デｲﾝﾍﾞﾝｽﾞｾﾝﾀｰ	1名
(87)国際医療福祉大学 社会福祉運営管理論 第2回勉強会		総務係	1名
(88)認知症研修		グループホーム	12名